

授業科目	授業番号： 398			担当者	西原 誠司
	社会哲学			授業外対応	メール・Line で連絡。
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	指定なし	前期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】人間とは何か/人間社会とは何かを哲学する</p> <p>【概要】現代社会に起こる様々な問題を念頭におきながら、人間とは何か、人間社会とはなにかを人類社会の起源にまで遡って解明していく。同時に、生きづらい社会を人間らしく生きていくためには、どのようなものを見方をすればいいのか、その世界観との関係性を探り、生きづらさを克服するための処方箋をともに考えていきたい。</p> <p>【到達目標】人間とは何か、人間社会とは何かを人類社会の歴史と日本社会の現実のなかから把握し、現代社会を生き抜く力=自己の内面を解放する方法を身につける。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布</p> <p>(2) 種村完司『コミュニケーションと関係の倫理』青木書店 鯨坂・有尾・鈴木編『ヘーゲル論理学入門』(有斐閣新書)</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 はじめに</p> <p>第 2回 人類社会の起源—人類700万年の歴史</p> <p>第 3回 日本人の起源を遡る</p> <p>第 4回 縄文社会にみる人類社会の共通原則—ひとりはおみんなのために、みんなはひとりのために</p> <p>第 5回 奴隷制社会にみる人間性—スパルタクスの蜂起 貴族と奴隷どちらが人間的か</p> <p>第 6回 封建社会の恋—近松門左衛門と『曾根崎心中』</p> <p>第 7回 王侯貴族の恋—『ベルサイユのバラ』とマリー・アントワネット</p> <p>第 8回 日本の近代と明治維新—坂本龍馬にみる近代的人格の誕生</p> <p>第 9回 明治維新と日本資本主義①—産業革命の光と影 富岡製糸</p> <p>第 10回 明治維新と日本資本主義②—産業革命の光と影 あゝ野麦峠</p> <p>第 11回 現代資本主義の光と影 夫はなぜ死んだのか 過労死認定の厚い壁</p> <p>第 12回 キューブラー・ロスと終末期医療/最後のレッスン 死のまぎわの真実 (1)</p> <p>第 13回 キューブラー・ロスと終末期医療/最後のレッスン 死のまぎわの真実 (2)</p> <p>第 14回 私たち抜きに私たちのことを決めないで 初期認知症を生きる</p> <p>第 15回 おわりに—言葉遊びで短所を笑おう</p>				
授業外学習 (予習・復習)	テキストの該当箇所を事前に読み、講義のあと、復習をし、それを通じて自分の見解を形成することに心がけてください。				
成績評価の方法	授業態度 (積極的に授業に参加しているか、感想文の提出) および筆記試験。				
実務経験について					

授業科目	授業番号： 399			担当者	山口 祐司
	経済学			授業外対応	メール等で予約の上適宜対応します。
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	指定なし	前期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 ミクロ経済学・マクロ経済学を中心に経済学の基礎的な考え方を学んでいきます。</p> <p>【概要】 経済とは、生産・流通・分配・消費・廃棄の社会的つながりのことです。現代社会においてはこのつながりは主として市場の仕組みによって媒介され、市場の仕組みがうまく機能しない場合に政府が補います。この授業では、個々の経済主体の目線から見た市場の機能の問題を扱うミクロ経済学と、「国」のような大きな社会的まとまりで経済の動きを分析するマクロ経済学という、経済学の基礎となる2つの考え方を学んでいきます。</p> <p>【到達目標】 経済学の基礎的な概念と理論を理解すること。新聞などに登場する時事的な経済問題について、自分なりの観点をもつこと。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) マンキュー, N・グレゴリー (2014) 『マンキュー入門経済学 [第2版]』 東洋経済新報社</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 授業ガイダンス、経済とは何か</p> <p>第 2回 経済学の考え方</p> <p>第 3回 ミクロ経済学の基礎 (1) 需要と供給</p> <p>第 4回 ミクロ経済学の基礎 (2) 価格決定と政府の政策</p> <p>第 5回 ミクロ経済学の基礎 (3) 市場の効率性</p> <p>第 6回 ミクロ経済学の基礎 (4) 不完全市場</p> <p>第 7回 ミクロ経済学の基礎 (5) ミクロ経済学のまとめ</p> <p>第 8回 マクロ経済学の基礎 (1) GDPの測定</p> <p>第 9回 マクロ経済学の基礎 (2) インフレーションとデフレーション</p> <p>第 10回 マクロ経済学の基礎 (3) 経済成長</p> <p>第 11回 マクロ経済学の基礎 (4) 貯蓄、投資と金融システム</p> <p>第 12回 マクロ経済学の基礎 (5) マクロ経済政策の役割</p> <p>第 13回 マクロ経済学の基礎 (6) 外国貿易</p> <p>第 14回 マクロ経済学の基礎 (7) マクロ経済学のまとめ</p> <p>第 15回 全体のまとめ、テスト対策</p>				
授業外学習 (予習・復習)	毎回の授業範囲の予習 (テキスト)・復習のほか、新聞の経済欄を日常から読むようにしてください。				
成績評価の方法	筆記試験 (60%)、毎回の授業で実施する授業まとめ (40%)				
実務経験について	なし。				

授業科目	授業番号： 400			担当者	未定
	行政法			授業外対応	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
テーマ及び概要	<b>【テーマ】</b> <b>【概要】</b> <b>【到達目標】</b>				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)				
授業 スケジュール	第 1回 第 2回 第 3回 第 4回 第 5回 第 6回 第 7回 第 8回 第 9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回				
授業外学習 (予習・復習)					
成績評価の方法					
実務経験について					

授業科目	授業番号： 401			担当者	岩上 敏秀
	経済政策			授業外対応	いつでも対応します。メールで連絡してください。
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	指定なし	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本および地域経済が抱えるさまざまな課題に対して、どのような政策が必要なのかを考えます。</p> <p>【概要】経済成長の鈍化と人口減少・少子高齢化の進展によって、これまで日本の経済社会を支えてきた諸制度にひずみが生じ、再構築が迫られています。日本や地域経済が抱えるさまざまな課題を採り上げ、将来に向けた制度設計について考えていきます。スマホを活用したリアルタイム投稿システムを使い、受講者の意見を聞きながら双方向の講義を行います。</p> <p>【到達目標】</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 授業内で適宜紹介する</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス：講義の目的・進め方 序章：経済政策とは何か</p> <p>第 2回 日本経済の構造変化と経済政策(1)：日本はなぜ課題先進国となったのか</p> <p>第 3回 日本経済の構造変化と経済政策(2)：日本経済の成長には何が必要なのか</p> <p>第 4回 財政再建を考える(1)： 財政の現状は、財政赤字は問題なのか</p> <p>第 5回 財政再建を考える(2)： 財政再建のための方策は、「社会保障と税の一体改革」とは</p> <p>第 6回 社会保障と雇用の将来を考える(1)： 社会情勢の変化と社会保障制度、少子高齢化の背景は</p> <p>第 7回 社会保障と雇用の将来を考える(2)： 所得格差は拡大しているのか、非正規雇用をめぐる課題とは</p> <p>第 8回 異次元の金融政策について考える(1)： 金融政策とは何か、金融政策の役割と制度は</p> <p>第 9回 異次元の金融政策について考える(2)： バブル崩壊以降の金融政策の効果は</p> <p>第 10回 環境問題を考える(1)： 環境問題とは何か、パリ協定とは、日本の取り組みは</p> <p>第 11回 環境問題を考える(2)： 環境問題と経済政策</p> <p>第 12回 地域経済を考える(1)： 地域政策の歴史、地方の人口減少問題</p> <p>第 13回 地域経済を考える(2)： 鹿児島県の産業構造、産業政策</p> <p>第 14回 地域経済を考える(3)： 地域創生のために必要な政策とは</p> <p>第 15回 まとめ、講義評価アンケート実施</p>				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示します。				
成績評価の方法	中間レポート (40%) + 期末レポート (60%)				
実務経験について	国内外の金融機関で約 30 年の実務経験があります。				

授業科目	授業番号： 402			担当者	岩上 敏秀
	金融論			授業外対応	いつでも対応します。メールで連絡してください。
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	指定なし	前期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】金融の仕組みや、経済社会の中で金融取引が果たしている役割について理解を深めます。</p> <p>【概要】モノやサービスが取引される裏では必ずお金が動きます。経済活動には、お金がスムーズに動く仕組みが不可欠です。金融とは世の中でお金がスムーズに動く仕組みのこと。本講義では、経済社会における金融の役割を学んだうえで、銀行や証券会社の役割、証券取引や日本銀行による金融政策まで幅広いテーマを採り上げます。金融と経済のかかわりを幅広く学び、社会人として必要な金融知識を身につけます。スマホを活用したリアルタイム投稿システムを使って、受講者の意見を聞きながら双方向の講義を行います。</p> <p>【到達目標】金融の基本的な仕組みや用語を理解し、仕事や生活で関わる金融に関する出来事について説明できるようになる。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 授業内で適宜紹介する</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス： 講義の目的・進め方 序論：金融の仕組みと役割を知ろう。なぜ金融を学ぶのか考えよう</p> <p>第 2 回 金融の役割： 経済社会の中での金融の役割を考えよう</p> <p>第 3 回 資金循環： 日本の中でのお金の大きな動きについて知ろう</p> <p>第 4 回 企業の投資と資金調達： 企業がお金を必要とする理由やその資金調達の方法について考えよう</p> <p>第 5 回 金融取引と金利： 金利について学ぼう</p> <p>第 6 回 金融取引の特徴と課題： 金融取引の特徴について考えよう</p> <p>第 7 回 銀行の役割： 銀行の役割や業務内容について学ぼう</p> <p>第 8 回 地域金融機関： 地域金融機関の役割について学ぼう</p> <p>第 9 回 金融市場： 金融機関の間で金融取引を行う金融市場の役割について学ぼう</p> <p>第 10 回 証券市場： 株式や債券、証券市場の取引ルールについて学ぼう</p> <p>第 11 回 日本銀行と金融政策（1）： 日本銀行の役割や金融政策について学ぼう</p> <p>第 12 回 日本銀行と金融政策（2）： 日本銀行の役割や金融政策について学ぼう</p> <p>第 13 回 日本銀行と金融政策（3）： 日本銀行の役割や金融政策について学ぼう</p> <p>第 14 回 金融危機と規制： 金融危機と予防策について考えよう</p> <p>第 15 回 まとめ、講義評価アンケート実施</p>				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示します				
成績評価の方法	中間レポート (30%) + 期末試験 (70%)				
実務経験について	国内外の金融機関で約 30 年の実務経験があります				

授業科目	授業番号： 403			担当者	近間 由幸
	社会政策			授業外対応	適宜対応（要予約）
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	指定なし	前期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】「日本の雇用システム」の下での労働・生活の全体像と社会政策の関係性について</p> <p>【概要】授業では、大企業男性正社員をモデルとして構築されてきた「日本の雇用システム」とそれに基づく社会政策について解説し、このシステムの周辺部に位置する非正規労働者、女性、若者、外国人などの格差・貧困の問題に対処するための社会政策を解説する。前半は労働政策を中心に扱い、後半は社会保障政策を中心に扱っていく。</p> <p>【到達目標】受講学生には、国の社会政策が自身の生活と密接にかかわっていることを理解し、社会政策の方向性について自分の考えを持てるようになることを目指す。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 石畑良太郎・牧野富夫・伍賀一道編『よくわかる社会政策（第3版） 雇用と社会保障』ミネルヴァ書房</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 インTRODクシヨン—日本社会の「しくみ」について</p> <p>第 2回 社会政策とはなにか</p> <p>第 3回 賃金と社会政策</p> <p>第 4回 企業と労働組合の関係</p> <p>第 5回 過労死と長時間労働</p> <p>第 6回 非正規雇用とは何か</p> <p>第 7回 日本社会における入社のしくみと若者支援政策</p> <p>第 8回 日本の雇用システムと女性の働き方</p> <p>第 9回 子育てと雇用政策</p> <p>第 10回 高齢者の福祉と雇用</p> <p>第 11回 社会保険のなかの医療保険制度</p> <p>第 12回 社会保険と生活保護の溝</p> <p>第 13回 労働市場政策の国際比較—スウェーデンモデルを事例として</p> <p>第 14回 移民問題と外国人労働者</p> <p>第 15回 全体のまとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	授業ごとのミニレポート (30%), 筆記試験 (70%)				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 404			担当者	藤野 博行
	民法			授業外対応	基本的にいつでも対応します。
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	指定なし	前期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】民法に関する基本的な知識を学び、身の回りの課題についての解決策を考えます。</p> <p>【概要】サービスを受ける、プレゼントを贈るなど、みなさんが日々何気なく行なっている活動を円滑に行うための基本ルールの多くは民法に定められています。本科目は、民法の基本的な知識について講義形式で学ぶとともに、グループで身近な法的トラブルに関する文献を読解し、解決策について考えます。</p> <p>【到達目標】①民法に関する基本的なキーワードや考え方について、その内容を説明できる、②課題について、グループで意見を出し合いながら論理的に考え、自分の意見を相手にわかりやすく表現することができる、③異質な他者と議論・協働することができる。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし (資料を配付します)</p> <p>(2) 道垣内弘人『リーガルベイス民法入門』日本経済新聞出版社(2019年) 5280円 ISBN-13:978-4296114641</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1 回 ①ガイダンス、②民法の意義と体系、③民法の基本原則</p> <p>第 2 回 権利能力と行為能力</p> <p>第 3 回 意思表示 (心裡留保、通謀虚偽表示)</p> <p>第 4 回 意思表示 (錯誤、詐欺、脅迫)</p> <p>第 5 回 代理 (代理の基礎、無権代理、表見代理)</p> <p>第 6 回 ①時効、②前半のまとめ</p> <p>第 7 回 ①中間テスト、②物権の意義と内容</p> <p>第 8 回 ①中間テストの講評、公信の原則と公示の原則 (悪意の第三者と背信的悪意者)</p> <p>第 9 回 ①公信の原則と公示の原則 (即時取得) ②所有権の意義・内容</p> <p>第 10 回 ①用益物権の意義、②担保物権の意義、③留置権・先取特権・質権の概要</p> <p>第 11 回 ①抵当権、根抵当権の概要、②債権の意義と概要</p> <p>第 12 回 ①契約の成立、②売買契約の基本事項</p> <p>第 13 回 ①売買契約 (消費者法)</p> <p>第 14 回 ①賃貸借契約、②事務管理、③不当利得</p> <p>第 15 回 ①不法行為、②後半の復まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	ミニッツペーパーの問題と質問・感想の記述内容 (25 点) 中間試験 (25 点)、期末試験 (50 点)				
実務経験について	なし				

他学科・他専攻の人たちと仲良くなってほしいので、座席指定をします。また、原則として毎回グループワークがあります。

授業科目	授業番号： 405			担当者	松田 忠大
	商法			授業外対応	講義終了時
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	指定なし	前期	2単位	選択	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】商法と特質と会社の組織および活動に関する法を学ぶ</p> <p>【概要】私たちは、多くの場合、企業から生活に必要な物資やサービスの提供を受けるとともに、企業に対して労働力を提供し、その対価としての賃金を得ている。現代では社会経済活動において、企業、とりわけ営利企業が重要な役割を果たしていることから、その一形態である会社に関する法制度を学ぶことは有意義である。そこで、本講義では、商法の領域における会社法に焦点をあて、特に株式会社の組織および運営に関する法制度を学習する。</p> <p>【到達目標】商法の特質、会社の組織および運営に関する基礎的事項を理解するとともに、会社をめぐる法律問題を通して法的思考力を身につける。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 神田秀樹『会社法』(第26版)(弘文堂)</p> <p>(2) 授業中に適宜紹介する。</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1 回 商法の意義および特質</p> <p>第 2 回 会社の意義と種類</p> <p>第 3 回 株式会社の設立</p> <p>第 4 回 株式① (株式の意義、株式の種類等)</p> <p>第 5 回 株式② (株主の権利、株主平等原則など)</p> <p>第 6 回 株式③ (株式の自由譲渡、譲渡制限)</p> <p>第 7 回 株式④ (株式の併合、分割、無償割当等)</p> <p>第 8 回 新株の発行</p> <p>第 9 回 新株予約権</p> <p>第 10 回 株式会社の機関① (総論・株主総会)</p> <p>第 11 回 株式会社の機関② (株主総会)</p> <p>第 12 回 株式会社の機関③ (役員等の選解任、取締役・取締役会)</p> <p>第 13 回 株式会社の機関④ (代表取締役、監査役、監査役会、会計監査人)</p> <p>第 14 回 株式会社の機関⑤ (役員等の義務・責任)</p> <p>第 15 回 会社の機関⑤ (株主代表訴訟・差止請求権)</p>				
授業外学習 (予習・復習)	授業前に各回の講義内容について予習をすること、また、授業後は講義内容について復習すること				
成績評価の方法	期末試験 80%、レポート 10%、毎回の授業終了後に提出する授業に対するコメント 10%を総合して 100 点満点で評価する。総合評価 60 点以上を合格とする。				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 406			担当者	岡村 俊彦
	産業心理学			授業外対応	講義前後に適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	指定なし	前期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 産業に関わる心理学を多角的に学ぶ</p> <p>【概要】 産業におけるヒューマンファクター（人的要因）を多角的に考える。前半は主に労働者の心理的側面を対象とするが、人間の基本的な特性もとらえることで、コンピュータを始め、システムの評価など多方面への応用も可能となる。後半は消費者の心理を対象とし、購買行動に関する様々な要因を考えていく。簡単な心理実験、心理テストなども織り交ぜていく予定である。</p> <p>【到達目標】 商品、システム、労働環境を人間の快適性から評価し、改善を考えることができるようになる。また、購買行動に関わる心理を売り手、買い手の両面から考えることができるようになる。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布，Web でも公開</p> <p>(2) なし</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1 回 概要説明</p> <p>第 2 回 人間とシステムの関わり合い，精神作業：ヒューマンインターフェイスの概念と精神作業の種類と性質</p> <p>第 3 回 記憶と学習：記憶と学習のメカニズムと産業への応用</p> <p>第 4 回 ヒューマンインターフェイス 1：ヒューマンインターフェイスの基本原則</p> <p>第 5 回 ヒューマンインターフェイス 2：ヒューマンインターフェイスの事例紹介</p> <p>第 6 回 職場のストレス：仕事におけるストレスのメカニズムと対策</p> <p>第 7 回 仕事の成功と動機付け：成功，失敗の心理的要因と仕事に対するモチベーションの種類</p> <p>第 8 回 人間関係，労働時間：職場における人間関係。労働時間と仕事の関係</p> <p>第 9 回 ユニバーサルデザイン：UD の理論と実践例</p> <p>第 10 回 広告の心理学：広告が視聴者にあたえる影響とメカニズム</p> <p>第 11 回 購買心理：消費者の購買心理</p> <p>第 12 回 販売，印象管理：セールステクニックと印章管理</p> <p>第 13 回 ヒューマンのエラー：人間のエラーのメカニズムと対策</p> <p>第 14 回 こころをはかる生理心理学：生理的現象の測定による心理状況の推察</p> <p>第 15 回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	通常のレポート 2 回分が 80%，授業ごとのリアクションペーパーが 20%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 407			担当者	宗田 健一
	会計学総論			授業外対応	講義前後に適宜対応，メール等で対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	指定なし	前期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 会計学の全体像を知る。</p> <p>【概要】 この講義は，これから会計を学習しようと思っている人を対象としています。会計の様々な領域について学習をします。半年間で，会計学の全体的な内容を理解することができます。</p> <p>【到達目標】 会計学の全体像を知る。会計学の様々な領域について学ぶ。会計の社会における役割を知る。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 小野正芳編著『スタートアップ会計学』（第3版）同文館出版。</p> <p>(2) 桜井久勝『財務会計講義』（第22版）中央経済社（予定），その他は講義中に指示します。</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス，会計って何？ 簿記・会計はどこからやってきたの？ 簿記・会計の歴史概要</p> <p>第 2 回 会計にどんな資格があるのか？ 会計の社会的役割</p> <p>第 3 回 会計はどう利用するの？ 財務分析の概要</p> <p>第 4 回 企業の成績はどうやってみるの？ 財務諸表の概要</p> <p>第 5 回 会計は経営にどう役立つの？ 管理会計の概要</p> <p>第 6 回 モノがいくらでできたかはどうやって決まるの？ 原価計算の概要</p> <p>第 7 回 会計情報はどうやって作られるの？ 簿記の概要</p> <p>第 8 回 会計制度はどうなっているの？ 財務会計の概要</p> <p>第 9 回 財務諸表は信頼できるの？ 財務諸表監査の概要</p> <p>第 10 回 会社の税金はいくらになるの？ 税務会計の概要</p> <p>第 11 回 グローバル経済における会計ルールってなに？ 国際会計の概要</p> <p>第 12 回 持続可能な社会づくりに会計はどう貢献できるの？ 環境会計・CSR 会計の概要</p> <p>第 13 回 ボランティア活動にも儲けが必要なの？ 非営利会計の概要</p> <p>第 14 回 自治体の会計はどうなっているの？ 公会計の概要</p> <p>第 15 回 まとめ：試験範囲の提示，成績評価方法の説明，質疑応答，授業評価アンケートの実施</p>				
授業外学習 (予習・復習)	復習が大切です。				
成績評価の方法	期末レポート 100%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 408			担当者	岡村 雄輝
	簿記論 I			授業外対応	講義前後に適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	指定なし	前期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】複式簿記の基本原理を学ぶ</p> <p>【概要】日商簿記3級レベルのテキストを使用して複式簿記による記帳手続を解説し、問題演習に取り組みます。簿記力を着実に養い、より高度な会計を学ぶためには、問題演習の反復を通じた複式簿記の基本原理の理解が肝要です。勤勉な学習姿勢が望まれます。</p> <p>【到達目標】簿記上の取引を仕訳・転記する手続から、決算本手続までの概要を理解する。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 渡部裕亘, 片山覚, 北村敬子 (編)『新検定 簿記講義3級 商業簿記』『簿記ワークブック3級』(令和7年版), 中央経済社。</p> <p>(2) 伊藤龍峰他『基本簿記原理』(第2版), 中央経済社。</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 複式簿記とはなにか? : 意義と目的, 簿記の基礎, 貸借対照表</p> <p>第 2回 複式簿記とはなにか? 貸借対照表, 損益計算書, 両者の関係</p> <p>第 3回 仕訳と転記: 勘定, 取引の意義, 取引8要素と結合関係</p> <p>第 4回 仕訳と転記: 仕訳の意義, 勘定への転記</p> <p>第 5回 仕訳と転記: 仕訳の意義, 勘定への転記</p> <p>第 6回 決算(1): 決算の意義と手続, 試算表の作成</p> <p>第 7回 決算(2): 帳簿の締切りと財務諸表の作成, 決算手続と精算表の作成</p> <p>第 8回 決算(3): 帳簿の締切りと財務諸表の作成, 決算手続と精算表の作成</p> <p>第 9回 現金と預金: 現金勘定と現金出納帳, 現金過不足, 当座預金と当座借越</p> <p>第 10回 現金と預金: 当座預金と当座借越, その他の預金, 小口現金</p> <p>第 11回 繰越商品・仕入・売上: 3分法, 諸掛と返品</p> <p>第 12回 繰越商品・仕入・売上: 仕入帳と売上帳, 商品有高帳</p> <p>第 13回 公認会計士が語る簿記会計を学ぶ意義: 複式簿記の実践についての講話</p> <p>第 14回 総合問題: 問題演習と解説</p> <p>第 15回 総合問題: 問題演習と解説</p>				
授業外学習 (予習・復習)	毎回復習をすること。継続的な学習なしに簿記はできるようになりません。				
成績評価の方法	期末テスト 100%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 409			担当者	竹中 啓之
	経営学総論			授業外対応	適宜対応（要予約）、及び講義終了後
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	指定なし	前期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】経営学全般について、幅広く理解し、経営学の特徴的な考え方を習得する。</p> <p>【概要】この講義では、初めて経営学を学ぶ際に必要と思われる知識や考え方について説明する。経営学が取り扱う様々なテーマを幅広く取り上げ、企業や組織の仕組みを理解する。また、経営学が持つ特徴的な考え方も説明し、その他の経営学関連の科目の修得の手助けになることを目指す。さらに、経営学が取り扱うテーマは、企業だけではなく、様々な場面で役立てることができる、実践的な学問であることも説明していくことにする。</p> <p>【到達目標】経営学に関する基礎的な知識を習得する。経営学と社会との関わりを理解する。そのほかの経営学関連の科目を履修する際に手助けとなるような力を身につける。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 授業中に配布するプリント</p> <p>(2) 講義中に指示する</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1 回 講義概要の説明：講義の進め方・内容・評価方法について説明する。</p> <p>第 2 回 経営学と経済学の違い：経営学と経済学の最も特徴的な違いについて説明する。</p> <p>第 3 回 経営学の発展と必要性：経営学がいかに社会にとって必要とされてきたかを理解する。</p> <p>第 4 回 企業の種類について：企業の種類とそれぞれの特徴について考える。</p> <p>第 5 回 企業の目的と役割について：企業が持っている目的と、果たすべき役割について理解する。</p> <p>第 6 回 企業における4つの経営資源（ヒト）：働く私たちと企業と関係を考える。</p> <p>第 7 回 企業における4つの経営資源（カネ）：企業の資金調達の方法などについて説明する。</p> <p>第 8 回 これまでのまとめと補足説明、及び中間テスト（予定）</p> <p>第 9 回 企業における4つの経営資源（モノ）：主にマーケティングについて説明する。</p> <p>第 10 回 企業における4つの経営資源（情報）：企業における情報の種類やその活用方法について説明する。</p> <p>第 11 回 日本の経営を考える：年功主義や終身雇用、そして成果主義・能力主義などについて考える。</p> <p>第 12 回 組織の基本的な仕組みについて：基本的な組織構造を理解し、その特徴を知る。</p> <p>第 13 回 企業統治について：株式会社の意思決定の仕組みについて説明する。</p> <p>第 14 回 経営戦略を考える：経営戦略の考え方について説明する。</p> <p>第 15 回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示する。				
成績評価の方法	期末筆記試験（70%）、中間レポートもしくは小テスト（30%）（予定） 詳細は1回目の講義で説明します。				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 410		担当者	岡村 俊彦	
	情報科学概論		授業外対応	講義前後に適宜対応	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	指定なし	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 コンピュータやネットワークなど情報科学 (ICT) 全般の基礎知識を学ぶ</p> <p>【概要】 コンピュータ (ハードウェア, ソフトウェア, 周辺機器) やネットワークの仕組みを知り, 現代社会においてどのような役割があり, どのような問題点があるかを知る。結果として, 効果的かつ適切な I T活用が可能となり, トラブル解決もできるようになる。また, ネットワークを安全に使うためのルール, マナーを学ぶ。また, 授業の3分の1程度の時間を使い, I Tに関する学生からの質問に対する解説をおこなう。</p> <p>【到達目標】 初心者向け情報関連雑誌を80%以上理解できる ・初心者に対して, パソコンやネットワークの安全, 便利な運用に関する簡単なアドバイスができる ・調子の悪いパソコンを直す</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布, Web でも公開</p> <p>(2) 初心者向け情報関連雑誌</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 概要説明</p> <p>第 2回 ハードウェアとソフトウェア：ハードとソフトの違いと役割</p> <p>第 3回 パソコンの中身：パソコン内部の部品とその役割</p> <p>第 4回 単位と容量と速度：情報処理や通信に関わる単位と容量, 速度</p> <p>第 5回 インターネットの仕組み：インターネットとネットワークの仕組み</p> <p>第 6回 電子メールの使い方：電子メールの仕組みと正しい使用法</p> <p>第 7回 ITセキュリティ：マルウェアとセキュリティ対策</p> <p>第 8回 インターフェイス：インターフェイスの種類と特性</p> <p>第 9回 周辺機器 1：モニタ, 光学ドライブなど周辺機器の役割, 仕組み</p> <p>第 10回 周辺機器 2：プリンタ, デジカメなど周辺機器の役割, 仕組み</p> <p>第 11回 ソフトの分類：ソフトウェアの分類と正しい使用法</p> <p>第 12回 Web3, クラウド, ビッグデータ, I o T: 新たなインターネットのトレンドと今後の展開</p> <p>第 13回 スペックの見方：パソコン, 周辺機器のスペック (仕様) の見方</p> <p>第 14回 AI と DX, インターネットの国際比較: AI と DX の基本知識, とインターネット利用の国際比較</p> <p>第 15回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	通常のレポート2回分が 80%, 授業ごとのリアクションペーパーが 20%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 411			担当者	永仮 ゆかり
	文書作成実習			授業外対応	講義終了時および必要に応じてメール
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	後期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】「Microsoft Word」を活用した、実践的なビジネス文書の作成能力の習得</p> <p>【概要】「Microsoft Word」を活用した実践的なビジネス文書の作成能力、IT・ネットワーク関連知識、文章の読解力、文書作成上の技巧など広く文書処理全般にわたる技能を習得することを目的とする。また、あわせて日商 PC 検定（文書作成 3 級）対策を行い、資格取得を目指す。</p> <p>*後期から履修する場合は、前期「情報リテラシー I」授業内容程度の技能を習得していることを前提とする。</p> <p>【到達目標】実践的なビジネス文書の作成能力の習得（日商 PC 検定文書作成 3 級合格レベルの技能の習得）</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 日本商工会議所 IT 活用能力検定研究会編著『改訂版 日商 PC 検定試験 3 級 知識科目 公式問題集』FOM 出版、プリント</p> <p>(2) 授業にて紹介する</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1 回 前期の復習：概要説明、前期の復習（基本的なビジネス文書の作成）</p> <p>第 2 回 検定対策（3 級）：社外文書の作成（案内状）、知識問題（共通分野）</p> <p>第 3 回 検定対策（3 級）：課題文書作成 1、知識問題（共通分野）</p> <p>第 4 回 検定対策（3 級）：図形を利用した文書の作成、知識問題（共通分野）</p> <p>第 5 回 検定対策（3 級）：通知状の作成、図形の補足、知識問題（共通分野）</p> <p>第 6 回 検定対策（3 級）：文書作成 3 級検定模擬問題演習、知識問題（共通分野）</p> <p>第 7 回 検定対策（3 級）：課題文書作成 2、知識問題（共通分野）</p> <p>第 8 回 検定対策（3 級）：文書作成 3 級検定サンプル問題演習、知識問題（共通分野）</p> <p>第 9 回 検定対策（3 級）：文書作成 3 級検定模擬問題演習</p> <p>第 10 回 Excel データの利用：Excel データ（表、グラフ）の文書への取り込み</p> <p>第 11 回 文書の編集：いろいろな応用機能（スタイル、文書の挿入、SmartArt など）</p> <p>第 12 回 報告書の作成：課題文書作成 3（Excel データ・テキストファイルの利用など）</p> <p>第 13 回 稟議書の作成：稟議書の作成（ユーザー定義の段落番号、表の編集など）</p> <p>第 14 回 議事録の作成：議事録の作成（テンプレートの利用、セクション区切りなど）</p> <p>第 15 回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	知識問題の予習・復習、実技問題の復習など適宜指示				
成績評価の方法	期末試験（知識科目 20%+実技科目 50%）と 3 回の課題（10%×3）の総合評価				
実務経験について	OA インストラクター、職業能力開発校パソコン実習科目の講師、市民講座（パソコン講座）の講師				

授業科目	授業番号： 412			担当者	倉重 賢治
	統計学			授業外対応	適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	指定なし	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 基本的な統計解析を学ぶ</p> <p>【概要】 現在、情報技術を有効に活用してデータ収集を行い、そのデータの分布や性質を明らかにすることが重要視されている。この講義では、そのためのツールとしての基本的な統計解析を学ぶ。</p> <p>【到達目標】・基本的なデータ処理を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相関関係について理解する</li> <li>・検定について理解する</li> </ul>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 特になし</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 序論：統計学とは</p> <p>第 2回 データの基本処理：平均値，度数分布</p> <p>第 3回 データの基本処理：標準正規分布</p> <p>第 4回 データの基本処理：正規分布</p> <p>第 5回 データの基本処理：正規分布と偏差値</p> <p>第 6回 データの基本処理：確率分布</p> <p>第 7回 統計解析：相関係数</p> <p>第 8回 統計解析：回帰直線</p> <p>第 9回 統計解析：カイ2乗検定</p> <p>第10回 統計解析：平均値の推定</p> <p>第11回 統計解析：平均値の検定</p> <p>第12回 統計解析：比率の推定と検定</p> <p>第13回 統計解析：ベイズ統計学</p> <p>第14回 統計解析：分散分析</p> <p>第15回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	授業中の課題 (20%) + 期末試験 (80%)				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 413			担当者	岡村 俊彦
	応用文書処理			授業外対応	講義前後に適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2,3年	前期	1単位	選択	実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】複数のアプリケーションを有機的に活用しながら、ネットワークにも対応したドキュメント作成を学ぶ</p> <p>【概要】1) 自己紹介文書作成：ワープロソフトを核に、グラフや写真などを含んだ自己紹介文書を作成する。</p> <p>2) ホームページ作成：自分なりの大学のホームページを作成し、公開する</p> <p>3) 提案書作成：インターネット検索と表計算ソフトを使い、架空の提案書を作成する。</p> <p>【到達目標】初めて扱うソフトでもすぐに使えるようになる ・わかりやすいドキュメントを作成する ・インターネット上のルールやマナーを身に付ける。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Web で公開</p> <p>(2) なし</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 概要説明</p> <p>第 2回 自己紹介文書作成 1：ワープロを使ったベース文書の作成</p> <p>第 3回 自己紹介文書作成 2：表計算ソフトを使ったグラフ作成とベース文書の結合</p> <p>第 4回 自己紹介文書作成 3：写真，図の取り扱いとベース文書の結合</p> <p>第 5回 自己紹介文書作成 4：仕上げ。印刷設定のコツ</p> <p>第 6回 ホームページ作成 1：HTML 概念の復習。USB メモリへのソフトの導入</p> <p>第 7回 ホームページ作成 2：課題設定とページ作成</p> <p>第 8回 ホームページ作成 3：資料収集とページ作成</p> <p>第 9回 ホームページ作成 4：ページ公開</p> <p>第 10回 提案書作成 1：インターネットによる費用情報検索</p> <p>第 11回 提案書作成 2：表計算ソフトによる自動計算書</p> <p>第 12回 提案書作成 3：プレゼン資料の作成</p> <p>第 13回 提案書作成 4：仕上げ，データ送信のコツ</p> <p>第 14回 提案書作成 5：プレゼンと評価</p> <p>第 15回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	レポート（3つの課題を総合的に評価）				
実務経験について	なし				

ワード、エクセルがある程度できる中級者向けの授業です。初級者の受講はできません。

授業科目	授業番号： 414			担当者	口脇 淳子
	PCデータ活用			授業外対応	授業後のまとめプリントで質問対応・習熟度確認
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	前期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】表計算ソフト「Microsoft Excel」を活用した基本操作の習得と活用</p> <p>【概要】表計算ソフト「Microsoft Excel」を使用し、まずは作表やグラフ化・業務データの分析など実務に必要な機能・操作法を習得する。さらに各機能の特徴と活用法を目的に応じて使い分けができる応用力を身につけられる技術を学ぶ。</p> <p>【到達目標】表計算ソフト「Microsoft Excel」の基本操作を確実に習得する。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 実教出版編修部 30時間でマスター Excel2021 (Windows11 対応) 実教出版株式会社</p> <p>(2)</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 Excel の起動と画面の確認 文字入力の確認</p> <p>第 2回 簡単な表作成とグラフ化：Excel の基本的な流れを確認</p> <p>第 3回 編集機能を活用した見やすい表の作成：行・列の操作・計算式や関数（合計・平均）の活用</p> <p>第 4回 編集機能を活用した見やすい表の作成：体裁の整え方・罫線</p> <p>第 5回 データ処理：関数の利用（カウント・端数処理など）</p> <p>第 6回 データ処理：関数の利用（条件の判定・論理関数など）</p> <p>第 7回 データ処理：関数の利用（順位づけ・VLOOKUP など）</p> <p>第 8回 各関数を利用した実習問題（小テスト）</p> <p>第 9回 棒グラフ・折れ線グラフの作成とさまざまな設定（軸ラベル・データラベル・目盛りなど）</p> <p>第 10回 円グラフ・3-D グラフの作成とさまざまな設定（データ範囲の変更・系列の書式など）</p> <p>第 11回 複合グラフ・ドーナツグラフ・絵グラフの作成（系列の設定・テキストボックスの利用・画像の利用など）</p> <p>第 12回 データベース入門：データベース作成上の各機能</p> <p>第 13回 データの集計（並べ替え・抽出 ほか）</p> <p>第 14回 データの集計（ピボットテーブル）</p> <p>第 15回 前期のまとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	各回の授業後、テキスト内の練習問題を復習し、次回授業時に提出もしくは確認を行う。				
成績評価の方法	期末試験（70%）＋小テスト（20%）＋授業で課せられる課題の提出状況（10%）				
実務経験について	企業、個人への講習会講師				

授業科目	授業番号： 415			担当者	口脇 淳子
	PCデータ活用実習			授業外対応	授業後のまとめプリントで質問対応・習熟度確認
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	後期	1単位	選択	実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 Microsoft Excel」を活用したビジネス現場で活用できる実践的な知識と技術の習得</p> <p>【概要】 前期に習得した機能を活用し、さまざまな実践問題に取り組む。また、実務に必要な業務知識も身につけられるようにする。授業は、検定対策として問題形式で進めていくが業務遂行に必要な内容を学習する。</p> <p>【到達目標】 知識と技術の習得を日商PC検定試験（データ活用）の3級資格取得で確認</p> <p>☆後期から履修する場合は、前期授業内容程度の技術を習得していることを前提とする</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 実教出版編修部 30時間でマスター Excel2021 (Windows11 対応) 実教出版株式会社</p> <p>(2) プリント</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 前期授業の復習</p> <p>第 2回 検定対策問題：構成比を求める問題 知識科目問題</p> <p>第 3回 検定対策問題：データの追加入力がある問題 知識科目問題</p> <p>第 4回 検定対策問題：アンケートデータの集計 知識科目問題</p> <p>第 5回 検定対策問題：簿記の要素を含んだ問題 知識科目問題</p> <p>第 6回 検定対策問題：利益率を求める問題 知識科目問題</p> <p>第 7回 検定対策問題：データの集計を取る問題 知識科目問題</p> <p>第 8回 検定対策問題：達成率を求める問題 知識科目問題</p> <p>第 9回 検定対策問題小テスト（実技問題・知識科目問題）</p> <p>第 10回 検定対策問題：伸び率を求める問題 知識科目問題</p> <p>第 11回 検定対策問題：データを参照する問題 知識科目問題</p> <p>第 12回 検定対策問題：集計データから請求書を作成する問題 知識科目問題</p> <p>第 13回 検定対策問題：別シートのデータから計算式を設定する問題 知識科目問題</p> <p>第 14回 検定対策問題：集計データをグループ化する問題 知識科目問題</p> <p>第 15回 後期のまとめ 知識科目問題</p>				
授業外学習 (予習・復習)	授業後、同じ問題を時間を計って解いてみる				
成績評価の方法	期末試験（80%）＋小テスト（20%）				
実務経験について	企業、個人への講習会講師				

授業科目	授業番号： 416			担当者	上野 祐子
	PCアプリケーション実習 (A)			授業外対応	講義終了時, 適宜対応 (要予約)
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	後期	1単位	選択	実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 様々なアプリケーションソフトを使ってみよう</p> <p>【概要】 事務系の職に就いても、プログラミングやPDF編集、データベースの仕事をする機会が増えてきている。また、様々な機能が搭載された使い勝手の良いアプリケーションソフトは多数存在するが、その習得には非常に時間がかかる。そこで、この授業では、学校やビジネスでよく使用されている代表的なアプリケーションソフトの基本的な操作方法を学ぶ。なお、ホームページ作成については、その仕組みを理解して欲しいため、専用のソフトではなくメモ帳を使用する。</p> <p>【到達目標】 各アプリケーションで課題を完成させる。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 適宜プリントを配布する。</p> <p>(2) 授業にて紹介する。</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション, ホームページ作成 (HTML: 見出し, 画像, 箇条書き, ハイパーリンク, 表)</p> <p>第 2回 ホームページ作成 2 (HTML: 段落, 水平線, 地図, 動画)</p> <p>第 3回 ホームページ作成 3 (CSS: Web ページのデザイン設定, 鑑賞会) 第 1回課題</p> <p>第 4回 プログラミング (Scratch)</p> <p>第 5回 プログラミング 2 (Scratch)</p> <p>第 6回 プログラミング 3 (言語は受講者の希望により決定する) 第 2回課題</p> <p>第 7回 動画編集 (フォト: 起動, トリミング, テキスト入りビデオの作成, 素材の収集)</p> <p>第 8回 動画編集 2 (フォト: 描画, クリップの速度, 音楽, 3D 効果)</p> <p>第 9回 動画編集 3 (フォト: タイトル, 鑑賞会) 第 3回課題</p> <p>第 10回 データベース (Excel のデータベース機能)</p> <p>第 11回 データベース 2 (Microsoft Access: テーブル, クエリ)</p> <p>第 12回 データベース 3 (Microsoft Access: テーブル, クエリ, フォーム) 第 4回課題</p> <p>第 13回 PDF 編集 (Adobe Acrobat Reader: PDF の作成と閲覧)</p> <p>第 14回 PDF 編集 2 (Adobe Acrobat Reader: PDF 編集)</p> <p>第 15回 PDF 編集 3 (Adobe Acrobat Pro: 画像やファイルで PDF 資料作成, 鑑賞会) 第 5回課題</p>				
授業外学習 (予習・復習)	興味を持って予習し、授業内容の復習をすること。				
成績評価の方法	5回の課題 (80%) と期末レポート (20%) の総合評価				
実務経験について	大企業ではシステムエンジニア, 中小企業では会計事務員として勤務した経験有り。日商マスター。市民講座講師。				

授業科目	授業番号： 417			担当者	上野 祐子
	PCアプリケーション実習 (B)			授業外対応	講義終了時, 適宜対応 (要予約)
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	後期	1単位	選択	実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 様々なアプリケーションソフトを使ってみよう</p> <p>【概要】 事務系の職に就いても、プログラミングやPDF編集、データベースの仕事をする機会が増えてきている。また、様々な機能が搭載された使い勝手の良いアプリケーションソフトは多数存在するが、その習得には非常に時間がかかる。そこで、この授業では、学校やビジネスでよく使用されている代表的なアプリケーションソフトの基本的な操作方法を学ぶ。なお、ホームページ作成については、その仕組みを理解して欲しいため、専用のソフトではなくメモ帳を使用する。</p> <p>【到達目標】 各アプリケーションで課題を完成させる。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 適宜プリントを配布する。</p> <p>(2) 授業にて紹介する。</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション, ホームページ作成 (HTML: 見出し, 画像, 箇条書き, ハイパーリンク, 表)</p> <p>第 2 回 ホームページ作成 2 (HTML: 段落, 水平線, 地図, 動画)</p> <p>第 3 回 ホームページ作成 3 (CSS: Web ページのデザイン設定, 鑑賞会) 第 1 回課題</p> <p>第 4 回 プログラミング (Scratch)</p> <p>第 5 回 プログラミング 2 (Scratch)</p> <p>第 6 回 プログラミング 3 (言語は受講者の希望により決定する) 第 2 回課題</p> <p>第 7 回 動画編集 (フォト: 起動, トリミング, テキスト入りビデオの作成, 素材の収集)</p> <p>第 8 回 動画編集 2 (フォト: 描画, クリップの速度, 音楽, 3D 効果)</p> <p>第 9 回 動画編集 3 (フォト: タイトル, 鑑賞会) 第 3 回課題</p> <p>第 10 回 データベース (Excel のデータベース機能)</p> <p>第 11 回 データベース 2 (Microsoft Access: テーブル, クエリ)</p> <p>第 12 回 データベース 3 (Microsoft Access: テーブル, クエリ, フォーム) 第 4 回課題</p> <p>第 13 回 PDF 編集 (Adobe Acrobat Reader: PDF の作成と閲覧)</p> <p>第 14 回 PDF 編集 2 (Adobe Acrobat Reader: PDF 編集)</p> <p>第 15 回 PDF 編集 3 (Adobe Acrobat Pro: 画像やファイルで PDF 資料作成, 鑑賞会) 第 5 回課題</p>				
授業外学習 (予習・復習)	興味を持って予習し、授業内容の復習をすること。				
成績評価の方法	5回の課題 (80%) と期末レポート (20%) の総合評価				
実務経験について	大企業ではシステムエンジニア, 中小企業では会計事務員として勤務した経験有り。日商マスター。市民講座講師。				

授業科目	授業番号： 418		担当者	船津 潤	
	日本経済論		授業外対応	講義前後、それ以外も随時(日時を調整することがあるかもしれませんが、遠慮なく声をかけてください)	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	指定なし	前期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本の明治維新以降の経済・経済政策の動きとその背景について理解を深めること</p> <p>【概要】明治維新から現在までの日本の経済と経済政策の動向について、特に産業政策、そして構造改革とアベノミクス以降の政策に焦点を当てながら講義します。また、過去が現在とどうつながっているかという歴史的推移とともに、石油危機、プラザ合意、日米構造協議、グローバル化といった海外からの影響を強く意識しながら講義を進めます。</p> <p>【到達目標】日本の経済と経済政策の歴史的推移について理解し、説明できるようになる 海外とのつながりを踏まえて日本経済の現状と課題について自分の見解が持てるようになる</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし</p> <p>(2) 三和良一『概説日本経済史 近現代 (第3版)』東京大学出版会 内閣府『年次経済財政報告 各年度版』</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス：講義の目標、評価基準等の説明</p> <p>第 2回 日本の産業政策の歴史 戦前(1)：資本主義社会とはどんな社会か等</p> <p>第 3回 日本の産業政策の歴史 戦前(2)：明治維新の意義、その後の産業構造の変化等</p> <p>第 4回 敗戦直後の日本経済：敗戦直後の状況、傾斜生産方式、1950年代前半の産業政策等</p> <p>第 5回 高度成長の開始：高度成長初期の産業政策と経済状況・産業構造等</p> <p>第 6回 企業集団とその変化：戦後の企業集団の特徴、グループ内の結び付き、現在の状況等</p> <p>第 7回 行政指導：勸告操短、企業の反発等</p> <p>第 8回 開放経済体制への移行：IMF8 条国への移行、産業再編等</p> <p>第 9回 1970年代の日本経済：2度の石油危機、知識集約化・高付加価値化への動き等</p> <p>第 10回 1980年代以降の日本経済：対米貿易摩擦、日米構造協議等</p> <p>第 11回 現在の産業政策：産業競争力強化法、現在の産業政策の特徴等</p> <p>第 12回 グローバル化と構造改革への動き：プラザ合意と国際協調、バブル崩壊後の動向等</p> <p>第 13回 構造改革：構造改革の特徴・本質等</p> <p>第 14回 構造改革と現在の政策：構造改革下の福祉改革の内容と特徴、近年の政策との比較等</p> <p>第 15回 まとめ：講義を振り返りつつポイントの説明、試験についての説明等</p>				
授業外学習 (予習・復習)	<p>普段から日本経済関連のニュース（できれば外国のメディアを含む複数）に注目すること、特に講義後に関連する事項についてインターネットや文献等で調べ、検討することを勧めます（これらは公務員試験を含む就職活動や四大への編入にも有意義です）。そして、講義内容に直接関係しなくても、聞きたいことや議論したいことが出てきたら、遠慮なく声をかけてください。</p>				
成績評価の方法	<p>筆記試験(80%)、小テスト(20%)を基本とし、アクティブラーニングでの発言内容で加点します。小テストやアクティブラーニング等の詳細については 1 回目の講義(ガイダンス)で説明します。</p>				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 419		担当者	船津 潤	
	財政学		授業外対応	講義前後、それ以外も随時(日時を調整することがあるかもしれませんが、遠慮なく声をかけてください)	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	指定なし	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 財政に関する基本的な概念や理論、日本の基礎的な制度の内容、実態、特徴、課題に対する理解を深めること</p> <p>【概要】 テーマを踏まえて、基礎的な制度について、財政民主主義という財政制度の根幹、公共部門と民間部門の関係、歴史的推移、グローバル化の影響を強く意識しながら講義を進めます。この講義で、マクロ経済学の理論等が実際にどのように政策に活用されているのか、また、他の科目では触れることが少ない経済に対する政治の影響に関しても理解してもらえそうです。</p> <p>【到達目標】 財政制度を理解し、政府活動を評価できるようになる 理論がどのように活用されているのか理解する 財政の影響を踏まえて経済・社会の動向を把握できるようになる</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし</p> <p>(2) 金澤史男編著『財政学』有斐閣(2005年) 神野直彦著『財政学 第3版』有斐閣(2021年) 関口祐司編著『図説 日本の財政 各年度版』財経詳報社</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス：講義の目標、評価基準等の説明</p> <p>第 2回 財政(1)：財政の定義、財政学の特徴、政府に対する評価の揺れ等</p> <p>第 3回 財政(2)：市場の失敗、財政民主主義と制度化に必要な原則等</p> <p>第 4回 予算(1)：定義、役割、政府と議会の役割、予算原則等</p> <p>第 5回 予算(2)：予算の種類、特別会計と「埋蔵金」、改革の方向等</p> <p>第 6回 経費(1)：定義、主要な分類、経費膨張の法則、転位効果等</p> <p>第 7回 経費(2)：小さな政府論とサプライサイド・エコノミクス等</p> <p>第 8回 租税(1)：定義、租税の根拠、代表的な租税原則等</p> <p>第 9回 租税(2)：公平の基準、望ましい税制とは等</p> <p>第 10回 公債(1)：定義、民間債務・租税との対比、公債の種類等</p> <p>第 11回 公債(2)：財投債と財政投融资、2001年度の改革、批判と今後の展望等</p> <p>第 12回 公債(2)：日本の国債発行における原則、制度、「ギリシャよりひどい」は本当か等</p> <p>第 13回 財政の国際化：国際公共財、国際的な ODA 改革の動向等</p> <p>第 14回 財政改革を考える：社会の変化と財政、財政危機とは、財政改革で求められる視点等</p> <p>第 15回 まとめ：講義を振り返りつつポイントの説明、試験についての説明等</p>				
授業外学習 (予習・復習)	<p>講義の前後に財務省のサイト等で関連事項について調べて検討すること、普段から経済・財政関連のニュースに注目すること(できれば外国のメディアを含む複数、加えて日本関連だけでなく、諸外国関連のニュースも)を勧めます(公務員試験を含む就職活動や四大への編入にも有意義です)。そして、講義内容に直接関係しなくても、聞きたいことや議論したいことが出てきたら、遠慮なく声をかけてください。</p>				
成績評価の方法	<p>筆記試験(80%)、小テスト(20%)を基本とし、アクティブラーニングでの発言内容で加点します。小テストやアクティブラーニング等の詳細については 1 回目の講義(ガイダンス)で説明します。</p>				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 420			担当者	前田 千春
	農業経済論			授業外対応	適宜対応する。メール等で事前に連絡してください。
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	指定なし	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】世界の食料生産の動向および日本の農業・農村の現状と課題について学ぶ。</p> <p>【概要】日本の農業・農村は、農業者の減少および高齢化、耕作放棄地の増加といった様々な課題に直面している。本講義では、農業の生産・流通の仕組みや日本農業の展開過程を学ぶとともに、現代の農業・農村に関する諸課題とその原因を世界情勢や経済発展と関連付けながら考察し、これからの日本農業について考える。</p> <p>【到達目標】世界の食料生産の動向および日本の農業・農村の現状と課題について理解し、日本農業の展望について考える能力を身に付ける。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2) 藤田武弘・内藤重之・細野賢治・岸上光克編著『現代の食料・農業・農村を考える』ミネルヴァ書房 (2018年) 八木宏典監修『最新版 図解 知識ゼロからの現代農業入門』家の光協会 (2019年)</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス：農業・農村の基礎知識</p> <p>第 2回 日本の農産物需給と食料事情</p> <p>第 3回 食の安全に向けた取り組み</p> <p>第 4回 日本農業の展開過程</p> <p>第 5回 農業協同組合</p> <p>第 6回 稲作</p> <p>第 7回 園芸作物</p> <p>第 8回 工芸作物</p> <p>第 9回 畜産</p> <p>第 10回 日本の農業・農村の現状と課題</p> <p>第 11回 日本農業の新たな取り組み</p> <p>第 12回 世界の農産物需給と食料事情</p> <p>第 13回 諸外国の農業と農業政策</p> <p>第 14回 途上国経済と農業</p> <p>第 15回 まとめ：これからの日本農業</p>				
授業外学習 (予習・復習)	講義ノートおよび参考文献を活用して講義レポートに取り組むこと。				
成績評価の方法	講義レポート (60%)、期末レポート (40%)				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 421			担当者	カムチャイ・ライサミ
	経済学史			授業外対応	講義終了時
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1,2,3年	前期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 経済学史入門 経済学説の史的展開をやさしく解説する。</p> <p>【概要】 経済学の時代的要請と経済学者の人となり経済学の黎明期前後（17世紀頃）から現代経済学（20世紀初頭）までの主要学説と経済学者を中心に紹介する。</p> <p>【到達目標】 経済学の歴史を知ることによって経済学をより深く理解できること 経済学の歴史を学んでその意義と限界を知ることによって正しい見方を身につける。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 教科書は特に指定しない。毎回プリントを配布する。</p> <p>(2) 必要に応じてその都度指示する。</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 経済学史の方法と範囲</p> <p>第 2回 重商主義の経済思想：マリーンズ、ミッセルデン、マン、スチュアート</p> <p>第 3回 重農主義の経済思想：ケネー、テュルゴー</p> <p>第 4回 過渡期の経済思想：ペティ、ロック、マンデヴィル、カンティロン、ヒューム</p> <p>第 5回 古典学派の生成：スミス</p> <p>第 6回 古典学派の発展：マルサス、リカード</p> <p>第 7回 古典学派の完成：セイ、シスモンディ、シーニア、ミル</p> <p>第 8回 ドイツ歴史学派：リスト、ロッシャー、ヒルデブラント、クニース</p> <p>第 9回 マルクス学派：マルクス</p> <p>第 10回 限界革命の先駆者達：テューネン、ゴッセン、デュピュイ、クールノー</p> <p>第 11回 限界革命：ジェヴォンズ、エッジワース</p> <p>第 12回 オーストリア学派：メンガー、ヴィーザー、バウム＝バヴェルク</p> <p>第 13回 ローザンヌ学派：ワルラス、パレート</p> <p>第 14回 ケンブリッジ学派：マーシャル、ピグー</p> <p>第 15回 ケインズ革命：ケインズ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	授業前後に必ず合計で4時間程度の予習・復習を行うこと。				
成績評価の方法	期末筆記試験（100%）				
実務経験について	なし。				

授業科目	授業番号： 422			担当者	山口 祐司
	経済学特講			授業外対応	メール等で予約の上適宜対応します。
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	指定なし	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】アメリカ経済とアメリカを中心とした国際経済関係の歴史を通して、経済学上のキーワードを学んでいきます。</p> <p>【概要】第二次世界大戦後の世界は、「パクス・アメリカナ」と呼ばれ、アメリカが国際経済、国際政治の枠組みをリードしてきました。しかし冷戦が終結して 30 年以上経った現在、米中対立に見られるように、アメリカの圧倒的な優位は失われつつあるように見えます。この授業では、アメリカの超大国としての経済的発展とその限界について、アメリカ国内および国際経済の歴史という観点から学んでいきます。</p> <p>【到達目標】アメリカ経済の歴史から特質を学ぶこと。良い意味でも悪い意味でも資本主義経済の最先端をいくアメリカに学ぶことで、日本を含む世界が直面する経済・社会の問題に取り組む力をつけること。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 講義時に提示</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス、なぜいまアメリカ経済を学ぶか</p> <p>第 2 回 アメリカ経済の勃興 (1) 大量生産体制</p> <p>第 3 回 アメリカ経済の勃興 (2) 債務国から世界最大の債権国へ</p> <p>第 4 回 大恐慌と第二次世界大戦 (1) 狂騒の 1920 年代</p> <p>第 5 回 大恐慌と第二次世界大戦 (2) 保護貿易と世界恐慌</p> <p>第 6 回 大恐慌と第二次世界大戦 (3) ニューディールと戦争</p> <p>第 7 回 ブレトンウッズ体制とケインズ政策 (1) ブレトンウッズ体制と戦後国際経済秩序</p> <p>第 8 回 ブレトンウッズ体制とケインズ政策 (2) ケインズ政策と持続的経済成長</p> <p>第 9 回 ブレトンウッズ体制とケインズ政策 (3) ドル危機と石油危機</p> <p>第 10 回 新自由主義の興隆 (1) レーガノミクスと金融化</p> <p>第 11 回 新自由主義の興隆 (2) グローバルサプライチェーンの形成</p> <p>第 12 回 新自由主義の興隆 (3) 先端技術とイノベーション</p> <p>第 13 回 新自由主義の帰結 (1) リーマンショック</p> <p>第 14 回 新自由主義の帰結 (2) 格差問題のゆくえ</p> <p>第 15 回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	事前に提示する参考文献を予習し、授業後にはプリントをよく見直すようにしてください。				
成績評価の方法	レポート (60%)、毎回の授業で実施する授業まとめ (40%)				
実務経験について	なし。				

授業科目	授業番号： 423			担当者	西原 誠司
	国際経済論			授業外対応	メール・Line で連絡。
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	指定なし	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】Love &amp; Peace の経済学—国際化する経済と「戦争なき世界」の実現可能性を考える</p> <p>【概要】ナチスドイツのポーランド侵攻を契機に始まった第二次世界大戦は、600万人のユダヤ人を含む6000万人の死者をだし、終結した。大戦後、様々な紛争・戦争は起こったが、第三次世界大戦は、起こっていない。では、なぜ、世界戦争が起こらなかったのか。このことの原因を、グローバル化した経済に求め、9.11以後多発するテロをなくす条件を考える。</p> <p>【到達目標】グローバル化した経済（国際経済）の現段階を認識することによって、どうすれば世界平和を実現することができるのかを考え、行動する力を身につける。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 西原誠司『グローバルイゼーションと民族・国家を超える共同体』（文理閣、2022年）</p> <p>(2) 朝日吉太郎編著『欧州グローバル化の新ステージ』（文理閣、2015年）西原誠司『グローバルイゼーションと現代の恐慌』（文理閣、2000年）</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 はじめに—アンネ・フランクの悲劇を繰り返さないために</p> <p>第 2回 資本主義の発展と貧困・恐慌・戦争—19世紀資本主義と20世紀資本主義の違い</p> <p>第 3回 資本主義のグローバル化と戦争を引き起こす政治・経済的条件の変化</p> <p>第 4回 資本主義のグローバル化と国際的地域経済ブロックの登場</p> <p>第 5回 グローバル化する経済とEUの新しい実験 ① 戦争の原因となった資源の共同管理</p> <p>第 6回 グローバル化する経済とEUの新しい実験 ② 関税同盟・市場統合・通貨統合</p> <p>第 7回 グローバル化する経済とEUの新しい実験 ③ 新しい国際通貨ユーロ登場の意味と金融危機</p> <p>第 8回 グローバル化する経済とEUの新しい実験 ④ 人間と環境にやさしい新しい社会をめざして</p> <p>第 9回 グローバル化する経済とEUの新しい実験 ⑤ 多文化主義・多言語主義とEU統合</p> <p>第10回 最後の帝国主義アメリカ ①—ふたつの大戦による西欧の没落と米国の覇権の確立</p> <p>第11回 最後の帝国主義アメリカ ②—多国籍企業の対外進出と経済競争・ベトナム戦争の敗北</p> <p>第12回 最後の帝国主義アメリカ ③—米・ソ冷戦体制の終焉とアメリカの「復活」・「没落」</p> <p>第13回 動揺する西欧世界とイスラム世界—モダンイスラム・トルコの挑戦と苦悩</p> <p>第14回 台頭する中国の新シルクロード戦略と「平和国家」・日本の役割</p> <p>第15回 おわりに—杉原千畝・チャプリン・中村哲の生き方に学ぶ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	テキストの該当箇所を事前に読み、講義のあと、復習をし、それを通じて自分の見解を形成することに心がけてください。				
成績評価の方法	授業態度（積極的に授業に参加しているか、感想文の提出）および筆記試験。				
実務経験について					

授業科目	授業番号： 424			担当者	未定
	アジア経済論			授業外対応	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
テーマ及び概要	<b>【テーマ】</b> <b>【概要】</b> <b>【到達目標】</b>				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)				
授業 スケジュール	第 1回 第 2回 第 3回 第 4回 第 5回 第 6回 第 7回 第 8回 第 9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回				
授業外学習 (予習・復習)					
成績評価の方法					
実務経験について					

授業科目	授業番号： 425			担当者	福田 忠弘
	国際関係論			授業外対応	適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	指定なし	前期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】国際社会に生起するさまざまな諸問題について理解する。同時に、国家以外の行為体についての理解を深める。</p> <p>【概要】本講義では、国際関係の史的展開を概説したうえで、現代国際関係における諸問題について分析する。国際関係の史的展開では、第二次世界大戦後の冷戦史（特にアジアにおける冷戦）を対象とし、国際システムの歴史の変遷をたどる。その後、特に貧困問題、環境問題、人権、テロ、グローバルガバナンスについての説明と、問題解決に向けた国際社会の取り組みを紹介する。</p> <p>【到達目標】国際社会の現代的諸問題を把握し、その背景についての理解を深める。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 使用しない。</p> <p>(2) 適宜、紹介する。</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス：講義の目的、方法</p> <p>第 2回 国際関係論の基礎1：国内社会と国際社会は何が違うのか</p> <p>第 3回 国際関係論の基礎2：行為体と争点の多様化</p> <p>第 4回 国際関係のなりたち1：第二次世界大戦後の秩序形成と冷戦</p> <p>第 5回 国際関係のなりたち2：アジアにおける冷戦の拡大1</p> <p>第 6回 国際関係のなりたち3：アジアにおける冷戦の拡大2</p> <p>第 7回 国際関係のなりたち4：核兵器について</p> <p>第 8回 国際関係のなりたち5：大国の支配とナショナリズム</p> <p>第 9回 国際関係のなりたち6：冷戦後の世界秩序</p> <p>第10回 国際社会における諸問題1：グローバリゼーションと貧困問題</p> <p>第11回 国際社会における諸問題2：貧困と開発</p> <p>第12回 国際社会における諸問題3：国境を越える諸問題</p> <p>第13回 国際社会における諸問題4：保守化する世界</p> <p>第14回 国際社会における諸問題5：コロナ、ウクライナ後の社会</p> <p>第15回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示する				
成績評価の方法	試験（100％）によって評価する。				
実務経験について	NGO での勤務経験あり				

授業科目	授業番号： 426			担当者	福田 忠弘
	アジア事情			授業外対応	適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	指定なし	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】東アジア、東南アジアの歴史と現在の状況について把握する。</p> <p>【概要】アジアは、地理、歴史、言語、文化、宗教、民族など、すべての面において多様である。本講義では、「アジア」という概念のもつ多様性について基本的な理解を得ながらも、「共通性」について焦点をあてる。近代以降においては植民地化、現代においては脱植民地化、国民国家建設、リージョナリズム（地域主義）の形成という共通性がある。また、最近東アジアにおける地域協力が注目を浴びている。これらの共通する事象を抽出し、分析する。</p> <p>【到達目標】「アジア」という概念のもつ多様性について基本的な理解を深める。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 使用しない。</p> <p>(2) 適宜、紹介する。</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス：講義の目的と方法</p> <p>第 2回 アジアの巨大遺跡：アンコールワット</p> <p>第 3回 アジアの巨大遺跡：バガン</p> <p>第 4回 「アジア」という概念：アジアはどこまでがアジアか</p> <p>第 5回 東南アジアの基本情報：地理や気候</p> <p>第 6回 海域アジア：海を通した結びつき（1）</p> <p>第 7回 海域アジア：海を通した結びつき（2）</p> <p>第 8回 海域アジア：海を通した結びつき（3）</p> <p>第 9回 歴史的形成1：植民地の様子</p> <p>第10回 歴史的形成2：植民地からの独立（1）</p> <p>第11回 歴史的形成3：植民地からの独立（2）</p> <p>第12回 東南アジア1：インドシナ3国</p> <p>第13回 東南アジア2：タイ、ミャンマー、マレーシア</p> <p>第14回 アジアにおける協力体制：ASEAN を中心とする協力</p> <p>第15回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示する				
成績評価の方法	レポート（100%）によって評価する。				
実務経験について	NGO での勤務経験あり				

授業科目	授業番号： 427			担当者	大重 康雄
	ヨーロッパ経済事情			授業外対応	メール等で適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1,2,3年	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ヨーロッパ(EU)を主に経済の視点でとらえ、ヨーロッパ (EU) がもたらす世界経済への影響や広域経済連携地域の課題を考察する C2B2:M2A2:M2N2D2:M2B2:M2C2:M2B2:M2</p> <p>【概要】ヨーロッパ地域統合 (EU) から通貨統合およびその後の金融財政危機等の変遷に注目し、今後のヨーロッパ社会の展望について考える。ガザ・ウクライナ紛争等による地政学的リスクが深刻化しておりそれら問題を米国や日本との通商・外交関係を交えて考察する</p> <p>【到達目標】ヨーロッパ地域統合 (EU) の現状と課題を学ぶことにより、大規模な経済連携やグローバル化が地域や人々にどのような影響を与えるかを理解できる</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 田中素香ほか『現代ヨーロッパ経済 第6版』有斐閣アルマ および講師作成プリント (2) 遠藤乾編『ヨーロッパ統合史』名古屋大学出版会ほか</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 開講 現在ヨーロッパで何が 起きているか</p> <p>第 2回 ヨーロッパ統合前史</p> <p>第 3回 ヨーロッパ統合の歴史</p> <p>第 4回 統一通貨ユーロとは</p> <p>第 5回 環境・エネルギー課題と EU財政諸問題</p> <p>第 6回 EU社会が抱える 地政学的課題</p> <p>第 7回 BREXT 後の イギリスの将来</p> <p>第 8回 フランスとEU経済</p> <p>第 9回 ドイツとEU経済</p> <p>第 10回 その他諸国とEU経済</p> <p>第 11回 中・東欧諸国と EU 経済</p> <p>第 12回 EUと対外通商政策</p> <p>第 13回 欧州通貨と 国際金融システム</p> <p>第 14回 ヨーロッパ社会と EU の将来</p> <p>第 15回 講義のまとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	シラバスに従って予習・復習し授業中に質問・意見交換すべきことをまとめること				
成績評価の方法	筆記試験 (80%) + 授業での発言内容 (20%)				
実務経験について	地域金融機関での貿易取引等外国為替業務の知識・海外経験を活かし、国際金融市場動向や地域経済を意識した実践的な授業を目指す				

授業科目	授業番号： 428			担当者	前田 千春
	地域経済論			授業外対応	適宜対応する。メール等で事前に連絡してください。
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	指定なし	前期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本の地域経済の構造を学び、地域経済の発展について考察する。</p> <p>【概要】人口減少や高齢化により地域経済の活性化は日本において喫緊の課題となっている。本講義では、地域経済の構造やその変化を捉える視点を学び、具体的な事例の分析を通じて地域経済の発展について考察する。</p> <p>【到達目標】日本の地域経済の構造とその実態を理解できる。地域経済を分析し、発展に向けた考察ができるようになる。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2) 松原宏編著『地域経済論入門 改訂版』古今書院（2022年）</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス：「地域」とは何か</p> <p>第 2回 地域経済の基礎理論</p> <p>第 3回 地域経済循環</p> <p>第 4回 地域経済の実態</p> <p>第 5回 地域経済に関する統計</p> <p>第 6回 グループワーク①：地域経済統計の活用</p> <p>第 7回 大都市と地方都市</p> <p>第 8回 工業都市</p> <p>第 9回 農業地域</p> <p>第 10回 山村地域</p> <p>第 11回 地場産業地域</p> <p>第 12回 第三次産業地域</p> <p>第 13回 地域経済の成長理論</p> <p>第 14回 グループワーク②：地域経済政策を考える</p> <p>第 15回 まとめ：地域経済の発展に向けて</p>				
授業外学習 (予習・復習)	毎回復習をして講義を受けること。グループワーク前には課題を提示するので、各自で取り組むこと。				
成績評価の方法	講義レポート（40%）、グループ発表（10%）、期末レポート（50%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 429			担当者	前田 千春
	地域産業政策			授業外対応	適宜対応する。メール等で事前に連絡してください。
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	指定なし	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 地域産業政策の理論と事例を学び、これからの地域づくりの方策を探る。</p> <p>【概要】 地域産業政策とは国や地方自治体が地域の活性化のために産業振興等を行う政策のことである。本講義では、日本の地域を取り巻く現状と地域産業政策の必要性について学ぶとともに、各地で行われている地域産業政策の効果を考察し、これからの地域産業政策の在り方を探る。</p> <p>【到達目標】 地域産業政策の理論および具体的な取り組みを理解できる。地域が直面する課題を把握し、今後の地域産業政策の在り方や方向性を提示できるようになる。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2) 白須正・細川孝 編『地域産業政策の新展開 京都市を中心とした歴史研究と比較研究を踏まえて』文理閣 (2023年)</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス：日本の地域を取り巻く現状</p> <p>第 2回 人口移動と地域間格差</p> <p>第 3回 地域産業政策の変遷</p> <p>第 4回 地域産業政策の事例①：製造業・工業</p> <p>第 5回 地域産業政策の事例②：農業</p> <p>第 6回 地域産業政策の事例③：林業</p> <p>第 7回 地域産業政策の事例④：観光業</p> <p>第 8回 地域産業政策の事例⑤：離島</p> <p>第 9回 鹿児島県の地域産業</p> <p>第 10回 グループワーク①：鹿児島県を事例に地域産業政策を考える</p> <p>第 11回 地方創生にかかる制度・仕組み</p> <p>第 12回 海外の地域産業政策①</p> <p>第 13回 海外の地域産業政策②</p> <p>第 14回 グループワーク②：地域産業政策の作成と発表</p> <p>第 15回 まとめ：これからの地域産業政策の在り方</p>				
授業外学習 (予習・復習)	毎回復習をして講義を受けること。グループワーク前には課題を提示するので、各自で取り組むこと。				
成績評価の方法	講義レポート (40%)、グループ発表 (10%)、期末レポート (50%)				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 430		担当者	船津 潤	
	地方自治論		授業外対応	講義前後、それ以外も随時(日時を調整することがあるかもしれませんが、遠慮なく声をかけてください)	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	指定なし	前期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】地方自治に関する基本的な概念や理論、日本の制度の内容、実態、特徴、課題に関する理解を深めること</p> <p>【概要】地方自治とは何か、日本の国と地方自治体との関係(政府間関係)の特徴を踏まえて、地方自治や地方行財政に関する基本的な概念や理論、制度について講義するとともに、参考になるとされる海外の事例も取り上げます。また、グローバル化の地方自治に与える影響等についても講義します。</p> <p>【到達目標】日本の制度について理解を深める 自治体の活動について考察、判断できるようになる 地域の課題を見出し、解決策を提案できるようになるための基礎力を身につける</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし</p> <p>(2) 総務省編『地方財政白書 各年版』日経印刷 金澤史男編著『現代の公共事業 国際経験と日本』日本経済評論社(2002年)</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス：講義の目標、評価基準等の説明</p> <p>第 2回 地方自治(1)：地方自治の本旨、地方自治が求められる根拠、地方自治の意義等</p> <p>第 3回 地方自治(2)：グローバル化の影響、水道の民活等</p> <p>第 4回 地方自治体の意思決定(1)：国と地方公共団体の関係、首長・役所・議会の関係等</p> <p>第 5回 地方自治体の意思決定(2)：地方の予算制度、長の強い権限等</p> <p>第 6回 地方自治体の財源(1)：歳入の自治と三位一体の改革、地方債等</p> <p>第 7回 地方財政健全化法(1)：地方財政健全化法、地方債改革との関係等</p> <p>第 8回 地方財政健全化法(2)：法律成立の背景、地方自治への影響等</p> <p>第 9回 地方自治体の財源(2)：地方交付税、国庫支出金、問題点等</p> <p>第 10回 法定外税(1)：法定外税の定義、地方分権一括法での変更点、現在の傾向等</p> <p>第 11回 法定外税(2)：受益・原因と負担の関係、利点と問題点等</p> <p>第 12回 市町村合併：「平成の大合併」とその背景、望ましい合併とは、現在の状況等</p> <p>第 13回 市民参加・参画：歴史、求められている背景、参考事例の紹介等</p> <p>第 14回 住民自治：シアトル・メトロの事例(地方政府の創設)について</p> <p>第 15回 まとめ：講義を振り返りつつポイントの説明、試験についての説明等</p>				
授業外学習 (予習・復習)	<p>講義の前後に自治体のサイト等で関連事項について調べ、検討すること、普段から地方自治関連のニュースに注目すること(できれば外国のメディアを含む複数)を勧めます(公務員試験を含む就職活動や四大への編入(地域との連携は殆どの大学にとって重要な課題です)にも有意義です)。そして、講義内容に直接関係しなくても、聞きたいことや議論したいことが出てきたら、遠慮なく声をかけてください。</p>				
成績評価の方法	<p>筆記試験(80%)、小テスト(20%)を基本とし、アクティブラーニングでの発言内容で加点します。小テストやアクティブラーニング等の詳細については 1 回目の講義(ガイダンス)で説明します。</p>				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 431			担当者	田口 康明
	高齢者福祉			授業外対応	taguchi@k-kentan.ac.jp ホームページ
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	指定なし	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】本科目は、専門科目として開設されている。授業では少人数が想定されるので、受講者はテキストを読み、その要約を発表しながら内容の理解を進めていく。</p> <p>【概要】社会福祉の構造を明らかにし、その中での高齢者福祉の位置づけについて考える。あわせて、2001年以降変化する社会福祉について、高齢者福祉の分野に導入された「介護保険」の制度を検討し理解する。</p> <p>【到達目標】介護保険を中核とする「高齢者福祉」の仕組みの理解につける。将来、高齢者当事者として、また介護者当事者として向き合うことが、すべての人にとってほぼ確実であるのでその理解を進める。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 小竹雅子『総介護社会—介護保険から問い直す(岩波新書)』</p> <p>(2) 授業内で随時紹介する。</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1 回 人権総論(1):人権の歴史と立憲主義(藤野)</p> <p>第 2 回 (講義)福祉とは何か・必要という考え方・必要に基づく社会政策</p> <p>第 3 回 (講義)資源とその供給・資源の再分配・官僚制と専門主義</p> <p>第 4 回 (発表)テキスト「序章:介護問題の社会化」</p> <p>第 5 回 (発表)テキスト「第1章:介護保険を利用する人たち」その1</p> <p>第 6 回 (発表)テキスト「第1章:介護保険を利用する人たち」その2</p> <p>第 7 回 (発表)テキスト「第2章:介護現場で働く人たち」その1</p> <p>第 8 回 第8回(発表)テキスト「第2章:介護現場で働く人たち」その2</p> <p>第 9 回 (発表)テキスト「第3章 介護保険のしくみ」その1</p> <p>第10回 (発表)テキスト「第3章 介護保険のしくみ」その2</p> <p>第11回 (発表)テキスト「第4章 介護保険の使い方」</p> <p>第12回 (発表)テキスト「第5章 介護保険にかかる金」</p> <p>第13回 (発表)テキスト「第6章 なぜ、サービスは使いづらいのか」</p> <p>第14回 (発表)テキスト「第7章 介護保険を問い直すガイダンス」</p> <p>第15回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	授業内にて指示(テキストの指示した範囲を必ず読むこと)				
成績評価の方法	授業中の発表(各自分担する)70%, ファイナルレポート30%				
実務経験について					

授業科目	授業番号： 432			担当者	藤野 博行
	労働法			授業外対応	基本的にいつでも対応します。
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	指定なし	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】労働者として知っておくべき知識と、その知識を活用して考える力を育みます。</p> <p>【概要】あまり意識していないかもしれませんが、みなさんは、アルバイトや卒業後に企業等で働く際に雇用契約を結びます。そして、働く皆さんを守ってくれる法律、それが労働法です。本科目は、労働法のうち、皆さんがアルバイトや社会に出たときに知っておいた方が良い基本的な知識を講義するほか、簡単な課題についてグループで考えます。</p> <p>【到達目標】①労働法に関する基本的なキーワードや考え方について、その内容を説明できる、②グループで意見を出し合いながら課題について論理的に考え、他者に自分の意見をわかりやすく表現することができる、③異質な他者と議論・協働することができる</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし（資料を配付します）</p> <p>(2) 必要に応じて提示します。</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1 回 ①ガイダンス、②アイスブレイク</p> <p>第 2 回 労働法とは（労働基準法・労働契約法）</p> <p>第 3 回 ①就業規則、②労働契約法の権利義務、</p> <p>第 4 回 ①就職活動と労働法（内々定・内定・内定取消、試用期間）</p> <p>第 5 回 ①労働条件の変更、②転配・出講・転籍</p> <p>第 6 回 ①労働時間とはなにか？、②様々な労働形態</p> <p>第 7 回 ①時間外労働、②前半のまとめ</p> <p>第 8 回 ①中間テスト、②みなし労働時間</p> <p>第 9 回 ①中間テストの講評、②割増賃金、③年次有給休暇</p> <p>第 10 回 ①産前産後休業、②育児・介護休業</p> <p>第 11 回 ①雇用における差別の歴史、②セクシャルハラスメント</p> <p>第 12 回 ①マタニティハラスメント、②パワーハラスメント</p> <p>第 13 回 労働災害と労災保険制度</p> <p>第 14 回 ①懲戒処分 of 自由と種類、②解雇と辞職</p> <p>第 15 回 後半の復習とまとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	ミニッツペーパーの問題と質問・感想の記述内容 (25 点) 中間試験 (25 点)、期末試験 (50 点)				
実務経験について	なし				

他学科・他専攻の人たちと仲良くなりたいので、座席指定をします。また、原則として毎回グループワークがあります。

授業科目	授業番号： 433			担当者	村田 秀博
	国際経済特講			授業外対応	授業終了後 Eメールにて
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1,2,3年	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 経済の国際化と鹿児島県内企業の海外進出、それに伴う貿易取引 県内中小企業も多くの海外業務を行っている。</p> <p>【概要】 日本の中小企業は、近年の国内経済環境の変化の中で企業活動を海外へ拡大させ、更なる商機をつかもうという動きが活発化している。県内でも同様であり、海外を目指す中小企業が「挑戦」「失敗」「成功」を繰り返している。その具体的な現状を認識した上で、海外展開方法論を考える。また基礎となる貿易知識も習得する。</p> <p>【到達目標】 地域の海外展開の具体的な動きを理解する中で、優位性・課題問題点をふまえた個々の解決方法を見出す。県内企業・行政機関などで、海外業務を担当できるスキルを習得する。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) レジユメ・プリント資料</p> <p>(2) 海外映像・サンプル・雑誌新聞投稿資料ほか</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス（日本経済・地域経済のグローバル化・海外知的財産権・外国人人材）</p> <p>第 2回 鹿児島県内中小企業の国際化の現状</p> <p>第 3回 進出国の情勢比較（中国）</p> <p>第 4回 進出国の情勢比較（中国）</p> <p>第 5回 海外知的財産権の保護（悪意の商標登録など）</p> <p>第 6回 県内大学の海外展開・県内医療機関メディカルツアーの誘致</p> <p>第 7回 貿易実務（各自由貿易協定、RCEP・TPP・FTA・EPA ほか）</p> <p>第 8回 進出国の情勢比較（台湾・香港・タイ）</p> <p>第 9回 進出国の情勢比較（ミャンマー・シンガポール）</p> <p>第 10回 進出国の情勢比較（マレーシア・インドネシア・ロシアほか）</p> <p>第 11回 進出国の情勢比較（ベトナム・外国人人材受け入れ）</p> <p>第 12回 貿易実務（外国為替・為替相場・先物予約）</p> <p>第 13回 貿易実務（外貨預金・外貨貸付）</p> <p>第 14回 貿易実務（輸出・輸入）</p> <p>第 15回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)					
成績評価の方法	筆記試験 80%+レポート 20%				
実務経験について	金融機関にて国際業務に 23年間携わり、世界各地にてフィールドワーク実践。貿易・外国人人材・海外知的財産権専門家。海外ビジネスツアー 100回以上企画催行。タイ王国赴任経験あり。お勧めの海外旅行精通。				

授業科目	授業番号： 434			担当者	福田 忠弘
	地域研究特講			授業外対応	適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	指定なし	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】世界の格差の状況について認識し、貧困の問題について国際社会はどのような対応をとってきたのかを講義する。</p> <p>【概要】本講義では、さまざまな国際協力・開発援助について取り上げる。最初に開発援助についての歴史について言及した後、国際機関、国家、地方自治体、市民が主体となった国際協力について概観する。</p> <p>【到達目標】さまざまな行為体が、さまざまなレベルで、多様な援助が行われていることを理解することが到達目標である。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 使用しない。</p> <p>(2) 新潟国際ボランティアセンター編『地方発の国際 NGO：グローバルな市民社会に向けて』（明石書店、2008年）</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス：講義の目的と方法</p> <p>第 2回 世界の現状 1：キーワードから見る国際社会（1）</p> <p>第 3回 世界の現状 2：キーワードから見る国際社会（2）</p> <p>第 4回 国際社会の変容（1）：ブレトンウッズ体制について</p> <p>第 5回 国際社会の変容（2）：ブレトンウッズ体制の変容</p> <p>第 6回 国際社会の変容（3）：グローバリゼーション、コロナ、経済安全保障</p> <p>第 7回 途上国の開発：開発をどのように捉えるか？</p> <p>第 8回 社会開発への視点（1）：NGO の活躍（1）</p> <p>第 9回 社会開発への視点（2）：NGO の活躍（2）</p> <p>第 10回 社会開発への視点（3）：国連と人間開発（1）</p> <p>第 11回 社会開発への視点（4）：国連と人間開発（2）</p> <p>第 12回 社会開発への視点（5）：国連と SDGs(1)</p> <p>第 13回 社会開発への視点（6）：国連と SDGs(2)</p> <p>第 14回 社会開発への視点（7）：地方自治体と SDGs</p> <p>第 15回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示する				
成績評価の方法	試験（100％）によって評価する。				
実務経験について	NGO での勤務経験あり				

授業科目	授業番号： 435			担当者	未定
	地方自治法			授業外対応	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
テーマ及び概要	【テーマ】 【概要】 【到達目標】				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)				
授業 スケジュール	第 1回 第 2回 第 3回 第 4回 第 5回 第 6回 第 7回 第 8回 第 9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回				
授業外学習 (予習・復習)					
成績評価の方法					
実務経験について					

授業科目	授業番号： 436			担当者	岡村 雄輝
	簿記論Ⅱ			授業外対応	講義前後に適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	指定なし	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】複式簿記の基本原理を学ぶ</p> <p>【概要】日商簿記3級レベルのテキストを使用して複式簿記による記帳手続を解説し、問題演習に取り組みます。簿記力を着実に養い、より高度な会計を学ぶためには、問題演習の反復を通して、複式簿記の基本原理を理解することが肝要です。勤勉な学習姿勢が望まれます。※簿記論Ⅰの学修を前提とした講義になります。</p> <p>【到達目標】決算整理手続、補助簿、伝票の記入について学習する。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 渡部裕亘, 片山覚, 北村敬子 (編)『新検定 簿記講義3級 商業簿記』『簿記ワークブック3級』(令和7年版), 中央経済社。</p> <p>(2) 伊藤龍峰他『基本簿記原理』(第3版), 中央経済社。</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 簿記一巡の手続きとは? : 仕訳・転記・決算</p> <p>第 2回 売掛金と買掛金 : 人名勘定, 売掛金と元帳と買掛金元帳, 売掛金明細表と買掛金明細表, クレジット売掛金, 前払金と前受金</p> <p>第 3回 その他の債権と債務 : 貸付金と借入金, 未収入金と未払金, 立替金と預り金, 仮払金と仮受金, 受取商品券, 差入保証金</p> <p>第 4回 受取手形と支払手形 : 手形の意義と補助簿, 手形貸付金と手形借入金, 電子記録債権と債務</p> <p>第 5回 有形固定資産 : 有形固定資産の取得, 減価償却, 有形固定資産の売却</p> <p>第 6回 有形固定資産 : 固定資産台帳, 年次決算と月次決算</p> <p>第 7回 貸倒損失と貸倒引当金 : 貸倒れと貸倒損失, 貸倒れの見積りと貸倒引当金の設定 資本 : 株式会社の設立と株s期の発行, 繰越利益剰余金, 配当</p> <p>第 8回 収益と費用 : 収益・費用の未収・未払いと前受け・前払い, 消耗品と貯蔵品, 諸会費</p> <p>第 9回 税金 : 租税公課, 法人税, 住民税及び事業税, 消費税</p> <p>第 10回 伝票 : 仕訳帳と伝票, 3伝票制, 伝票から帳簿への記入</p> <p>第 11回 伝票 : 伝票の集計</p> <p>第 12回 財務諸表 : 試算表の作成, 決算整理</p> <p>第 13回 財務諸表 : 精算表の作成, 財務諸表の作成</p> <p>第 14回 総合問題 : 問題演習と解説</p> <p>第 15回 総合問題 : 問題演習と解説</p>				
授業外学習 (予習・復習)	毎回復習をすること。継続的な学習なしに簿記はできるようになりません。				
成績評価の方法	期末テスト100%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 437			担当者	竹中 啓之
	経営管理論			授業外対応	適宜対応（要予約）、及び講義終了後
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	指定なし	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 企業経営や組織運営での「ヒト」及び「組織」の管理方法について講義する。</p> <p>【概要】 管理はすべての集団・組織において存在する職能です。また「経営」とは、財またはサービスを生産する経済活動に従事する組織体を統制することと定義できます。従って経営管理とは、経営活動を行う組織体を調整する職能となります。またこの活動を行うのは経営者の役割です。この講義では、経営者が、効率的な組織運営のための工夫や、組織内部の関係者や組織外部の状況に効果的に対処する方法について講義していきます。</p> <p>【到達目標】 組織管理の難しさを理解する。経営管理に関する諸学説を概観する。経営管理に関連する専門的用語を知る。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 授業中に配布するプリント</p> <p>(2) 講義中に指示する</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1 回 講義概要の説明：講義の進め方・内容・評価方法について説明する。</p> <p>第 2 回 経営管理論とは何か：管理論の特徴と他の経営学関連の科目と連携について説明する。</p> <p>第 3 回 組織における人間（1）：企業で人を管理する際の基本となる考え方などについて説明する。</p> <p>第 4 回 組織における人間（2）：テイラーの科学的管理法と「経済人モデル」について説明する。</p> <p>第 5 回 組織における人間（3）：メイヨー他の人間関係論と「社会人モデル」について説明する。</p> <p>第 6 回 組織における人間（4）：マズローの欲求階層説と「自己実現人モデル」について説明する。</p> <p>第 7 回 他の動機づけモデルについて説明し、改めて人が働く意欲とはどのように生み出されるのか考える。</p> <p>第 8 回 人的資源管理（1）：企業での人的資源管理全体の流れや考え方について説明する。</p> <p>第 9 回 人的資源管理（2）：採用管理について説明する。</p> <p>第 10 回 人的資源管理（3）：人事異動（初任配置・配置転換・昇進など）について説明する。</p> <p>第 11 回 人的資源管理（4）：人材育成の基礎について説明する。</p> <p>第 12 回 人的資源管理（5）：人材育成の「熟練」について考えていく。</p> <p>第 13 回 人的資源管理（6）：人事評価の仕組みと賃金管理について説明する。</p> <p>第 14 回 リーダーの役割とは何か：リーダー（上司）として適切な行動とは何かを考える。</p> <p>第 15 回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示する。				
成績評価の方法	期末筆記試験（70%）、中間レポートもしくは小テスト（30%）（予定） 詳細は1回目の講義で説明します。				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 438			担当者	近間 由幸
	経営組織論			授業外対応	適宜対応（要予約）
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	指定なし	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】経営組織論における個人と組織の関係性について</p> <p>【概要】授業では、経営組織に関わる理論を紹介し、これらの理論がどのような企業組織を念頭に置いて議論されてきたものなのかを解説する。また、現代社会において求められている組織や個人のあり方について、適宜事例を交えながら解説を行う。</p> <p>【到達目標】「組織」、「リーダーシップ」、「モチベーション」という言葉でイメージされる人物像や組織モデルについて、自らの経験と照らし合わせて考えらることを目指す。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 上林憲雄・庭本佳子編『経営組織入門』文真堂</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 インTRODクシヨン—いろいろな組織の捉え方</p> <p>第 2回 組織論における人間モデル</p> <p>第 3回 ワーク・モチベーションとその理論</p> <p>第 4回 個人と組織のかかわり合い—モチベーション、コミットメント、キャリア</p> <p>第 5回 集団の機能と組織</p> <p>第 6回 組織におけるリーダーシップ</p> <p>第 7回 組織文化</p> <p>第 8回 官僚制組織とネットワーク組織</p> <p>第 9回 経営組織の設計</p> <p>第 10回 戦略と組織学習</p> <p>第 11回 イノベーションと組織</p> <p>第 12回 変動する環境における組織</p> <p>第 13回 経営組織の動態化と組織変革</p> <p>第 14回 ダイバーシティ・マネジメントと組織</p> <p>第 15回 全体のまとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	授業ごとのミニレポート (30%)，中間レポート (30%)，期末レポート (40%)				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 439		担当者	近間 由幸	
	労務管理論		授業外対応	適宜対応（要予約）	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	指定なし	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 労務管理に関わる諸制度と働く人々に及ぼす影響について</p> <p>【概要】 授業では、日本的雇用システムの下での労務管理の諸制度とそれらが成立した背景について解説し、それらが時代に応じて一定の合理性を持っていたことを解説する。また、それらの諸制度がどのような労働問題を生じさせてきたのかを解説する。</p> <p>【到達目標】 歴史的・国際的な視点から、企業の働き方には多様な形が存在することを理解し、現代の企業に望ましい労働環境とは何かについて考えられることを目指す。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 佐藤博樹・藤村博之・八代充史『新しい人事労務管理〈第7版〉』有斐閣アルマ</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 インTRODクシヨン—講義の概要と労務管理を学ぶ意義について</p> <p>第 2回 労務管理とはなにか</p> <p>第 3回 雇用管理制度のしくみ</p> <p>第 4回 組織構造と職務内容</p> <p>第 5回 キャリア開発のしくみ</p> <p>第 6回 賃金管理制度のしくみ (1) 一年功賃金とはなにか</p> <p>第 7回 賃金管理制度のしくみ (2) 一職能給と職務給</p> <p>第 8回 人事評価制度のしくみ</p> <p>第 9回 福利厚生制度のしくみ</p> <p>第 10回 労働時間管理のしくみ</p> <p>第 11回 日本企業の女性管理職・役人の現状と労務管理</p> <p>第 12回 ダイバーシティ・マネジメント</p> <p>第 13回 労務管理と労働組合</p> <p>第 14回 労務管理の国際比較</p> <p>第 15回 全体のまとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	授業ごとのミニレポート (30%), 筆記試験 (70%)				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 440			担当者	根本 萌希
	管理会計論			授業外対応	講義終了時
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1,2,3年	後期	2	選択	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 管理会計の基礎</p> <p>【概要】 管理会計論は経営学と会計学を結ぶ実学的な学問領域です。本講義では、管理職に求められる意思決定への理解を深めることを目的としています。そのため、管理職を志向する学生に役立つ内容を管理会計論で学習していきます。</p> <p>【到達目標】 管理会計の基礎的な知識や技法を習得する。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) レジュメ配布 James Jiambalvo (2022)『管理会計のエッセンス (原著第7版)』同文館出版</p> <p>(2) 岡本清・尾畑裕・廣本敏郎・挽文子 (2008)『管理会計第2版』中央経済社 櫻井通晴 (2019)『管理会計第7版』同文館出版</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 ガイダンスおよび管理会計の概観</p> <p>第 2回 CVP 分析 (2)</p> <p>第 3回 CVP 分析 (2)</p> <p>第 4回 活動基準原価計算</p> <p>第 5回 業務的意思決定 (1)</p> <p>第 6回 業務的意思決定 (2)</p> <p>第 7回 これまでのまとめおよび中間試験</p> <p>第 8回 中間試験フィードバックおよび顧客収益性分析</p> <p>第 9回 貨幣の時間価値 (1)</p> <p>第 10回 貨幣の時間価値 (2)</p> <p>第 11回 長期意思決定 (1)</p> <p>第 12回 長期意思決定 (2)</p> <p>第 13回 予算編成および予算管理</p> <p>第 14回 分権化および業績評価</p> <p>第 15回 講義のまとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	予習・復習が必要				
成績評価の方法	中間試験 40%および期末試験 60%				
実務経験について	該当なし				

計算問題のある回では電卓が必要です。休講による補講や風水害等の場合は、オンライン授業をおこなう場合があります。

授業科目	授業番号： 441			担当者	瀬口 毅士
	国際経営論			授業外対応	適宜対応（要予約）
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2,3年	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】国際経営や多国籍企業の諸側面について理解する</p> <p>【概要】本講義では、国際経営の諸側面について講義します。特に、国際経営の主要プレイヤーであり、現代社会に多大なる影響を与えている「多国籍企業」を中心に上げます。</p> <p>また、この講義は、理論部分と事例部分に区分して進めていきます。理論部分では、学説史、生産、戦略、組織、マーケティングなどの諸領域について解説します。事例部分では、各種記事を用いながら、国際経営の現代的動向について学んでいきます。</p> <p>【到達目標】国際経営を理解する上で不可欠な基本的知識の習得を目指すとともに、国際経営や多国籍企業に関連する情報を自力で読み解き、考えられる力を養成する。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配付</p> <p>(2) なし</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 インTRODクシヨN：授業の進め方や成績の評価方法を確認する。</p> <p>第 2回 国際経営の「いま」：事例やデータを用いて、国際経営に関するイメージをつかむ。</p> <p>第 3回 国際貿易と海外直接投資：国際貿易と海外直接投資について概況を解説する。</p> <p>第 4回 事例①：国際経営に関する具体的事例に触れ、様々な観点から考察してみる。</p> <p>第 5回 多国籍企業とは何か：多国籍企業の定義を確認し、その特徴を知る。</p> <p>第 6回 多国籍企業論の系譜：多国籍企業論について、その学説史を学ぶ。</p> <p>第 7回 事例②：国際経営に関する具体的事例に触れ、様々な観点から考察してみる。</p> <p>第 8回 国際生産：国際的な生産システムのあり方について考える。</p> <p>第 9回 国際経営組織：組織構造に焦点を当て、経営の国際展開との関連性を講義する。</p> <p>第 10回 国際経営戦略①：経営戦略論の基本を押さえつつ、その国際的展開について考える。</p> <p>第 11回 国際経営戦略②：国際経営戦略に関する様々な理論を説明する。</p> <p>第 12回 事例③：国際経営に関する具体的事例に触れ、様々な観点から考察してみる。</p> <p>第 13回 国際マーケティング：国境を超えるマーケティングの特徴について解説する。</p> <p>第 14回 事例④：国際経営に関する具体的事例に触れ、様々な観点から考察してみる。</p> <p>第 15回 まとめ：これまでの講義を振り返りながら、テストについて説明する。</p>				
授業外学習 (予習・復習)	授業のなかで適宜指示します。				
成績評価の方法	期末筆記試験（80%）＋事例回での小レポートなど（20%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 442			担当者	宗田 健一
	会計情報論			授業外対応	講義前後に適宜対応，メール等で対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2,3年	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 会計情報の作成方法，伝達方法，利用方法を知る</p> <p>【概要】 会計情報の作成方法についての基礎を学ぶ。開示される会計情報について，その仕組みを知る。開示された会計情報の利用方法を知る。各種分析手法（成長性，収益性，安全性）について学習し，個別企業・グループの財務諸表分析を行います。その際，『金融商品取引法に基づく有価証券報告書等の開示書類に関する電子開示システム』（通称：EDINET（Electronic Disclosure for Investors' NETwork））を用いて実際の財務諸表データを入手して各種分析を行います。</p> <p>【到達目標】 会計情報の作成，伝達，利用の方法を知る。基本的な財務諸表分析が行えるようになる。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 未定（ただし，大学生協にて販売予定）</p> <p>(2) 随時紹介</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス：履修登録確認，講義計画に関する説明</p> <p>第 2回 会計情報の利用者：利害関係者，会計情報の入手方法（EDINETの使い方，アニュアルレポートの入手等）</p> <p>第 3回 有価証券報告書：全体像，記載内容の確認，分析対象企業の絞り込み</p> <p>第 4回 会計学と財務情報・非財務情報について</p> <p>第 5回 財務諸表分析による企業分析①（収益性分析：ROA，ROEなど）</p> <p>第 6回 財務諸表分析による企業分析②（収益性分析：損益分岐点分析など）</p> <p>第 7回 財務諸表分析による企業分析③（成長性分析：各種増加率など）</p> <p>第 8回 財務諸表分析による企業分析④（成長性分析：売上予測など）</p> <p>第 9回 財務諸表分析による企業分析⑤（安全性分析：短期的視点，長期的視点など）</p> <p>第 10回 財務諸表分析による企業分析⑥（キャッシュ・フロー分析①）</p> <p>第 11回 財務諸表分析による企業分析⑦（キャッシュ・フロー分析②）</p> <p>第 12回 時系列分析（2社以上）</p> <p>第 13回 同業他社比較分析（2社以上）</p> <p>第 14回 学生による分析報告とディスカッション</p> <p>第 15回 まとめ：レポート試験の提示，成績評価方法の説明，質疑応答，授業評価アンケートの実施</p>				
授業外学習 (予習・復習)	復習が大切です。毎回，宿題を課します。				
成績評価の方法	中間レポート 40%，期末レポート 60%				
実務経験について	なし				

会計学総論，簿記論，財務会計論を履修した者，履修中の者が望ましい。

授業科目	授業番号： 443		担当者	竹中 啓之	
	企業行動科学		授業外対応	適宜対応（要予約）、及び講義終了後	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	指定なし	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 企業経営における意思決定やリーダーシップについて考える。</p> <p>【概要】 行動科学では、実際におこった事実をもとにして記述し、説明し、分析していく記述論的アプローチを行う。この講義ではこのようなアプローチ方法を前提として、人や企業の意思決定がどのように行われているのかについて考え、実際の意思決定の特徴やその問題点について取り上げる。また、組織（集団）として良い意思決定を行うための方法についても考える。これらに関連して、リーダーシップ論や動機づけ理論についても触れる。</p> <p>【到達目標】 個人や組織の意思決定プロセスを理解する。リーダーシップや動機づけに関する主要な理論を理解する。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 授業中に配布するプリント</p> <p>(2) 講義中に指示する</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1 回 講義概要の説明：講義の概略を説明する</p> <p>第 2 回 意思決定プロセスとはどのようなものか：意思決定プロセスについて説明する</p> <p>第 3 回 人の認知能力と意思決定：簡単な実験を通して人の認知能力について考える</p> <p>第 4 回 組織の意思決定：組織の意思決定について説明する</p> <p>第 5 回 集団での意思決定は本当に優れているのか：集団での意思決定の問題点を考える</p> <p>第 6 回 組織の意思決定の質を高める方法について</p> <p>第 7 回 組織の運営と個人の役割：組織の運営における個人の役割を考える</p> <p>第 8 回 映画「12人の怒れる男たち」について：集団的意思決定について映画を通して考える</p> <p>第 9 回 意思決定に関連するその他の問題点について</p> <p>第 10 回 インセンティブシステム（動機づけ理論）：動機づけ理論とその問題点について説明する</p> <p>第 11 回 リーダーシップとは何か：リーダーシップの考え方の変化とその問題点について説明する</p> <p>第 12 回 上司と部下の関係を考える：問題のある上司に当たったときの対処法を考える</p> <p>第 13 回 物事を理解するレベル：物事を理解するレベルには段階があり、理論から実践へつなげることの大事さを知る</p> <p>第 14 回 大学での学びについて考える：「卒業式は自由な人生の終わり」ではないという意味を解説する</p> <p>第 15 回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示する。				
成績評価の方法	期末筆記試験（70%）、中間レポートもしくは小テスト（30%）（予定） 詳細は1回目の講義で説明します。				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 444			担当者	瀬口 毅士
	経営戦略論			授業外対応	適宜対応（要予約）
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	指定なし	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】経営戦略論に関する基本的知識を習得する</p> <p>【概要】経営戦略とは、外部環境の変化に対応しながら、長期的な存続・発展を図るための、企業の意思決定を意味します。経営戦略論のなかでも、企業全体の戦略である「企業戦略」、および事業ごとの戦略である「競争戦略」を中心に講義します。さらに、最近の企業動向を紹介しながら、現代社会における経営戦略のあり方についても解説します。</p> <p>【到達目標】経営戦略論の基本概念やそれらの関係性について知る。講義を通じて獲得した知見を基に、企業に関するニュースや新聞などの情報を理解できるようになる。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配付</p> <p>(2) なし</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 インTRODクシヨン：授業の進め方や成績の評価方法を確認する。</p> <p>第 2回 経営戦略とは何か：経営戦略論の概要を説明する。</p> <p>第 3回 経営理念とドメイン：経営理念およびドメイン（事業領域）について解説する。</p> <p>第 4回 規模の経済と範囲の経済：具体的事例に基づき規模の経済と範囲の経済を説明する。</p> <p>第 5回 垂直統合と水平統合、垂直分業と水平分業：統合と分業について解説する。</p> <p>第 6回 多角化戦略：関連型多角化と非関連型多角化の違いを中心に講義する。</p> <p>第 7回 M&amp;A と戦略的提携（1）：実例を紹介しながら、M&amp;A について解説する。</p> <p>第 8回 M&amp;A と戦略的提携（2）：実例を紹介しながら、戦略的提携について解説する。</p> <p>第 9回 経験曲線と PLC：PPM の基礎となる、経験曲線と PLC について解説する。</p> <p>第 10回 PPM（1）：全社的視点から、経営資源の配分について考える。</p> <p>第 11回 PPM（2）：PPM のメリットとデメリットについて知る。</p> <p>第 12回 競争戦略論とは何か：競争戦略論の概要と 2 つのアプローチを紹介する。</p> <p>第 13回 ポジショニング・アプローチ：M. ポーターの学説を中心に講義する。</p> <p>第 14回 資源ベース・アプローチ：資源ベース・アプローチの各学説について説明する。</p> <p>第 15回 まとめ：これまでの講義を振り返りながら、テストについて説明する。</p>				
授業外学習 (予習・復習)	授業のなかで適宜指示します。				
成績評価の方法	期末筆記試験（100%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 445			担当者	倉重 賢治
	経営工学			授業外対応	適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	指定なし	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 企業などにおける運營業務の科学化</p> <p>【概要】 現在の企業活動においては、情報技術を有効に活用した情報収集、さらにそれらの情報を用いた意思決定が頻繁に行われている。今後は社内に限らず、取引先も含めた情報も共有化されることで、より広範囲での最適化を目指した意思決定の必要性が増してきている。この講義では、企業活動において頻繁に行われる意思決定、例えば、生産スケジュールの立案や在庫管理など、その問題の概要や解法アルゴリズムに関して論じる。</p> <p>【到達目標】 企業活動における、ヒト・モノ・カネ・情報の効率的な運用の大切さを理解する。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 特になし</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 序論：経営工学とは</p> <p>第 2回 生産スケジュールリング 1：どんな順番で製品を作れば良いのか</p> <p>第 3回 生産スケジュールリング 2：どんな順番で作業を行えば良いのか</p> <p>第 4回 工程編成：均等に作業を割り当てるには</p> <p>第 5回 プロジェクト管理：プロジェクトをなるべく早く終わらせるには</p> <p>第 6回 設備配置：設備のキャパシティはどれくらいにすれば良いのか</p> <p>第 7回 生産計画：何をどれくらい作れば一番儲かるのか</p> <p>第 8回 作業分析：作業者の動作を分析する</p> <p>第 9回 投資計画 1：お金の現在価値と将来価値</p> <p>第 10回 投資計画 2：プロジェクトの価値</p> <p>第 11回 在庫問題：在庫コストを少なくする</p> <p>第 12回 評価と選択：複数の代替案の中から一番良いものを選ぶ</p> <p>第 13回 最短経路：一番近い道を探す</p> <p>第 14回 配送計画：配達順序を決める</p> <p>第 15回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	授業中の課題 (20%) + 期末試験 (80%)				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 446			担当者	倉重 賢治
	応用データ活用			授業外対応	適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	指定なし	前期	1単位	選択	実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】リレーショナルデータベースの基本操作と Excel を用いた統計処理</p> <p>【概要】この演習の前半では、代表的なデータベースソフトであるマイクロソフト社の Access の基本操作を学び、データベース設計に関する問題に取り組んでいく。後半では、Excel を用いた統計処理を学ぶ。</p> <p>【到達目標】・データベースソフト Access の使い方を修得する。 ・Excel を用いた統計処理を理解する。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 未定 (2) 特になし</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1 回 序論：リレーショナルデータベースの概念 第 2 回 Access の操作：Access とは 第 3 回 Access の操作：テーブルの作成 第 4 回 Access の操作：クエリの作成 第 5 回 Access の操作：フォームの作成 第 6 回 Access の操作：レポートの作成 第 7 回 Access の操作：リレーションシップの作成 第 8 回 Access の操作：クエリによる複雑な条件設定 第 9 回 Excel による統計処理：基本統計量 第 10 回 Excel による統計処理：正規分布 第 11 回 Excel による統計処理：相関係数と回帰直線 第 12 回 Excel による統計処理：比率の推定と差の検定 第 13 回 Excel による統計処理：平均値の推定 第 14 回 Excel による統計処理：平均値の差の検定 第 15 回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	授業中の課題 (50%) + 期末試験 (50%)				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 447			担当者	倉重 賢治
	プログラミング			授業外対応	適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	指定なし	後期	1単位	選択	実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 VBA (Visual Basic for Application) を用いたプログラミング</p> <p>【概要】 プログラミングとは、コンピュータで実行したい作業を人間ではなく計算機が理解できるように記述することである。この演習では、プログラミングの基本概念を Excel に含まれている VBA により学習する。プログラムの作成を通じて、論理的な思考を身につけることはもちろんのこと、VBA の利用により、さらに高度な Excel の活用方法が可能となる。</p> <p>【到達目標】・ 基本的なプログラミング技術を身につける。</p> <p>・ VBA を利用した Excel のより高度な活用方法を修得する。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) たてばやし淳, 『ExcelVBA 塾』 マイナビ出版</p> <p>(2) 特になし</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 序論：プログラミングの概念</p> <p>第 2回 VBA の利用：マクロについて</p> <p>第 3回 VBA の利用：セルの操作</p> <p>第 4回 VBA の利用：演算と変数</p> <p>第 5回 VBA の利用：繰り返し (1)</p> <p>第 6回 VBA の利用：繰り返し (2)</p> <p>第 7回 VBA の利用：最終行の取得</p> <p>第 8回 VBA の利用：条件分岐 (1)</p> <p>第 9回 VBA の利用：条件分岐 (2)</p> <p>第 10回 VBA の利用：関数の利用</p> <p>第 11回 VBA の利用：データ抽出</p> <p>第 12回 VBA の利用：シートの操作</p> <p>第 13回 VBA の利用：ファイルの操作</p> <p>第 14回 VBA の利用：実用マクロ</p> <p>第 15回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	授業中の課題 (50%) + 期末試験 (50%)				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 448		担当者	岡村 雄輝	
	財務会計論		授業外対応	講義前後に適宜対応	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	指定なし	前期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 財務会計のルールと基礎概念を理解する</p> <p>【概要】 簿記論では技術的な学習が中心でしたが、本科目では「企業会計に関する問題」を事例として取り上げ、現代社会のなかで複式簿記を基礎とする会計という計算制度の果たしている役割を学習します。言い換えれば、「企業会計」への社会的視線を出発点にして、財務諸表の社会的役割や財務諸表の作成原理について解説を進めていきます。※会計学総論、簿記論Ⅰ・Ⅱの学修を前提とした講義になります。</p> <p>【到達目標】 各企業の採用している会計方法の違いが財務諸表にいかなる影響を与えるか、さらには、そうした会計方法を採用した理由・背景などにも関心を向けて欲しい。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布</p> <p>(2) 桜井久勝・須田一幸『財務会計・入門』(第18版)、有斐閣 桜井久勝『財務会計講義』(第25版)、中央経済社。</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 インTRODクシヨN: 会計をめぐる2つのドラマ</p> <p>第 2回 会計の役割と規則: 会計の機能と法規制</p> <p>第 3回 財務諸表における表示: 貸借対照表と損益計算書の関係と取引の認識</p> <p>第 4回 財務諸表を読む: やさしい経営分析</p> <p>第 5回 会計の計算原理: 物語としての会計</p> <p>第 6回 棚卸資産の会計: 棚卸資産, 評価方法, 期末評価, 処理方法の変更</p> <p>第 7回 有形固定資産の会計: 有形固定資産, 減価償却の意味, 算定方法, 減損, リース</p> <p>第 8回 無形固定資産の会計: 無形固定資産, のれん, 研究開発費とソフトウェア, 繰延資産</p> <p>第 9回 金融資産の会計: 金融資産, 有価証券, デリバティブ</p> <p>第 10回 負債の会計: 負債, 引当金, 退職給付債務, 資産除去債務</p> <p>第 11回 純資産の会計: 純資産の部, 会社の再編, 自己株式, 配当</p> <p>第 12回 収益・費用・税金: 収益と費用の認識, 税効果会計</p> <p>第 13回 連結財務諸表: 連結決算の意義</p> <p>第 14回 その他の財務諸表: 包括利益計算書, キャッシュフロー計算書, 株主資本等変動計算書, 注記</p> <p>第 15回 決算: 真実な報告と会計戦略</p>				
授業外学習 (予習・復習)	講義前後にテキストを精読してください。				
成績評価の方法	期末テスト 100%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 449			担当者	岡村(俊)・倉重
	情報論特講			授業外対応	講義前に適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	指定なし	前期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 ICT（情報通信技術）について実用的、応用的な学習をおこなう。</p> <p>【概要】 ハードウェア、ソフトウェア、ネットワークといった ICT を学び、日商 PC 検定 2 級知識科目と同等以上の知識を得る。表計算ソフト（エクセル）の実用的な使用方法について学習を行う。</p> <p>【到達目標】 実社会において、自ら ICT 業務に携わり、効果的、効率的な活用ができるようにする。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) FOM 出版「よくわかるマスター 改訂版 日商 PC 検定試験 2 級 知識科目 公式問題集」、プリント</p> <p>(2) 特になし</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1 回 概要説明：授業概要と評価方法の説明</p> <p>第 2 回 ハードとソフト：PC 等の ICT 機器のハードウェア、ソフトウェアの解説</p> <p>第 3 回 コンピュータの内部部品 1：CPU とメモリの解説</p> <p>第 4 回 コンピュータの内部部品 2：ストレージと光学ドライブの解説</p> <p>第 5 回 インターネットとネットワーク：TCP/IP の設定、ルータの役割の解説</p> <p>第 6 回 表計算ソフトの活用 1：Web クエリのグラフ作成</p> <p>第 7 回 表計算ソフトの活用 2：フィルターとピボットテーブル</p> <p>第 8 回 コンピュータが扱う数字：2 進数</p> <p>第 9 回 情報セキュリティ 1：インターネットの危険性</p> <p>第 10 回 情報セキュリティ 2：暗号</p> <p>第 11 回 数理モデル 1：シミュレーション</p> <p>第 12 回 数理モデル 2：最適化</p> <p>第 13 回 AI の利活用：AI とは</p> <p>第 14 回 AI の利活用：機械学習</p> <p>第 15 回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	レポート (30%) + 授業中の課題 (40%) + 期末試験 (30%)				
実務経験について	なし				

(注) 「情報科学概論」(担当：岡村)を履修済み、もしくは同等以上の学習が終了している者を対象とする

授業科目	授業番号： 450			担当者	瀬口 毅士
	マーケティング論			授業外対応	適宜対応（要予約）
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	指定なし	前期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 マーケティング論を体系的に学ぶ</p> <p>【概要】 マーケティングとは、モノやサービスを売るための仕組みづくりです。現代の企業にとってマーケティングはますます重要になっています。本講義では、マーケティング論の基本事項を説明した後、現代社会におけるマーケティングのあり方を解説します。また、グループ・ワークを適宜取り入れることで、内容の理解を深めていきます。</p> <p>【到達目標】 マーケティング論に関する基本的知識を習得することで、消費者としてあるいはマーケターとしての視点を養うことを目標とする。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配付</p> <p>(2) なし</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 インTRODクシヨN：授業の進め方や成績の評価方法を確認する。</p> <p>第 2回 マーケティング論の基本概念：マーケティング論の概要や基本概念を説明する。</p> <p>第 3回 グループ・ワーク（1）：身近な商品について考えてみよう。</p> <p>第 4回 標的市場の選択：STP について解説する。</p> <p>第 5回 消費者行動分析：消費者の購買行動について理解を深める。</p> <p>第 6回 競争分析：企業間競争の構造分析の方法を知る。</p> <p>第 7回 グループ・ワーク（2）：STP を使ってみよう。</p> <p>第 8回 製品戦略：製品・サービスの分類や製品ミックスなどを説明する。</p> <p>第 9回 価格戦略：価格設定の重要性とその方法について講義する。</p> <p>第10回 流通戦略（1）：流通の仕組みとチャネル選択について説明する。</p> <p>第11回 流通戦略（2）：チャネル管理とSCM について解説する。</p> <p>第12回 プロモーション戦略：プロモーション・ミックスとメディア・ミックスを講義する。</p> <p>第13回 ブランド戦略（1）：ブランド構築やブランド管理について考える。</p> <p>第14回 ブランド戦略（2）：ブランド構築やブランド管理について考える。</p> <p>第15回 まとめ：これまでの講義を振り返りながら、テストについて説明する。</p>				
授業外学習 (予習・復習)	授業のなかで適宜指示します。				
成績評価の方法	期末筆記試験（80%）＋リアクシヨN・ペーパーやグループ・ワークなど（20%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 451			担当者	担当教員
	第二部・基礎演習			授業外対応	演習の前後、個別にアポイントをとって対応。
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	前期	2単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】演習（ゼミナール）の基本的なあり方（運営・議論の仕方など）について学び、学生として必要な作法を身につける。</p> <p>【概要】社会科学系の大学教育の要となるのは「ゼミナール」です。ゼミナールとは司会・報告・問題提起・議論といった対話型の授業であり、学生によって自発的に運営されます。基礎演習はゼミナールに参加する学生に求められる学問的な作法を身につける場です。具体的には、文献の読み方、報告の仕方、レポートの書き方等を学び、演習Ⅰから始まる専門的なゼミナールの予行演習ともいえます。また、学びの作法だけでなく、大学の歩き方（報告・連絡・相談の仕方、様々な窓口・施設での諸手続の仕方等）も身につけます。</p> <p>【到達目標】基本的なゼミナールの運営について理解し、積極的に参加する姿勢を身につける。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) ゼミナールごとに異なるため、担当教員が指示します。</p> <p>(2) ゼミナールごとに異なるため、担当教員が指示します。</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 ゼミナールごとに異なるため、担当教員が説明します。</p> <p>第 2回</p> <p>第 3回</p> <p>第 4回</p> <p>第 5回</p> <p>第 6回</p> <p>第 7回</p> <p>第 8回</p> <p>第 9回</p> <p>第 10回</p> <p>第 11回</p> <p>第 12回</p> <p>第 13回</p> <p>第 14回</p> <p>第 15回</p>				
授業外学習 (予習・復習)	ゼミナールごとに異なるため、担当教員が説明します。(100%)				
成績評価の方法	ゼミナールごとに異なりますが、個人の報告や出席状況、グループの中での役割やレポートなどによって総合評価されます。(100%)				
実務経験について	ゼミナールごとに異なります。				

授業科目	授業番号： 452			担当者	担当教員
	第二部・演習 I			授業外対応	演習の前後、個別にアポイントをとって対応。
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2年	後期	2単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 報告・議論・レポート執筆等を通して、担当教員の専門性を活かしたテーマについて、参加メンバーと一緒に学ぶ。</p> <p>【概要】 基礎演習と同様に本演習も、学生が主体的に参加する対話型の授業であり、それぞれのゼミナールの専門的な基礎知識・基礎概念について、通常の講義よりもさらに一歩進んで理解を深める場です。必要に応じて、工場見学等の企業調査や研究のための合宿などの課外活動を実施することもあります。なお、演習 I・演習 II・卒業研究は同じゼミナールに継続して参加することになります。</p> <p>【到達目標】 ゼミナールのテーマに関する基礎知識・概念について正しく理解する。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) ゼミナールごとに異なるため、担当教員が指示します。</p> <p>(2) ゼミナールごとに異なるため、担当教員が指示します。</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 ゼミナールごとに異なるため、担当教員が説明します。</p> <p>第 2回</p> <p>第 3回</p> <p>第 4回</p> <p>第 5回</p> <p>第 6回</p> <p>第 7回</p> <p>第 8回</p> <p>第 9回</p> <p>第 10回</p> <p>第 11回</p> <p>第 12回</p> <p>第 13回</p> <p>第 14回</p> <p>第 15回</p>				
授業外学習 (予習・復習)	ゼミナールごとに異なるため、担当教員が説明します。(100%)				
成績評価の方法	ゼミナールごとに異なりますが、個人の報告や出席状況、グループの中での役割やレポートなどによって総合評価されます。(100%)				
実務経験について	ゼミナールごとに異なります。				

授業科目	授業番号： 453			担当者	担当教員
	第二部・演習Ⅱ			授業外対応	演習の前後、個別にアポイントをとって対応。
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	3年	前期	2単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】演習Ⅰから引き続き担当教員の専門性を活かしたテーマについて学びながら、卒業研究の準備を始める。</p> <p>【概要】演習Ⅱは、演習Ⅰの内容・講義形式を継続し、特定の専門分野についてさらに学びを進めます。テキストの読解やフィールドで見聞きした事象について表面的に理解するだけでなく、他の講義・実習科目などで学んだことも総動員しながら、事象の本質に迫るような学習が求められる場です。そのような学習を通して、ゼミナールのテーマについての検討すべき問題点を整理し、卒業論文執筆の準備も進めていきます。</p> <p>【到達目標】ゼミナールのテーマについての学習を通して、検討すべき問題を設定することができる。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) ゼミナールごとに異なるため、担当教員が指示します。</p> <p>(2) ゼミナールごとに異なるため、担当教員が指示します。</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 ゼミナールごとに異なるため、担当教員が説明します。</p> <p>第 2回</p> <p>第 3回</p> <p>第 4回</p> <p>第 5回</p> <p>第 6回</p> <p>第 7回</p> <p>第 8回</p> <p>第 9回</p> <p>第10回</p> <p>第11回</p> <p>第12回</p> <p>第13回</p> <p>第14回</p> <p>第15回</p>				
授業外学習 (予習・復習)	ゼミナールごとに異なるため、担当教員が説明します。(100%)				
成績評価の方法	ゼミナールごとに異なりますが、個人の報告や出席状況、グループの中での役割やレポートなどによって総合評価されます。(100%)				
実務経験について	ゼミナールごとに異なります。				

授業科目	授業番号： 454			担当者	担当教員
	第二部・卒業研究			授業外対応	演習の前後、個別にアポイントをとって対応。
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	3年	後期	2単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】演習Ⅰ，Ⅱを通して学んだテーマを踏まえて，各自で設定した問題について報告・議論を通して考察を深め，卒業論文を執筆する。</p> <p>【概要】卒業研究は商経学科における学びの総決算です。演習Ⅰから継続して学んできたテーマにしたがって卒業論文を執筆します。卒業論文は短期間に一気に書き上げられるほど簡単なものではありません。演習Ⅰから継続してきた専門分野の学習を土台にして，設定した問題に関する文献を渉猟し，必要に応じてフィールドに出て調査することもあります。ゼミナールはその経過を報告し，相互に意見を交わしながら自分なりの答えを見つけ，論文にまとめる場です。</p> <p>【到達目標】自ら設定した問題について，関連文献を渉猟し，調査・考察を重ねて，解答に迫ることができる。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) ゼミナールごとに異なるため、担当教員が指示します。</p> <p>(2) ゼミナールごとに異なるため、担当教員が指示します。</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 ゼミナールごとに異なるため、担当教員が説明します。</p> <p>第 2回</p> <p>第 3回</p> <p>第 4回</p> <p>第 5回</p> <p>第 6回</p> <p>第 7回</p> <p>第 8回</p> <p>第 9回</p> <p>第 10回</p> <p>第 11回</p> <p>第 12回</p> <p>第 13回</p> <p>第 14回</p> <p>第 15回</p>				
授業外学習 (予習・復習)	ゼミナールごとに異なるため、担当教員が説明します。(100%)				
成績評価の方法	ゼミナールごとに異なりますが，個人の報告や出席状況，グループの中での役割やレポートなどによって総合評価されます。(100%)				
実務経験について	ゼミナールごとに異なります。				

授業科目	授業番号： 455			担当者	担当教員
	社会活動			授業外対応	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	指定なし	通年	2～4単位	選択(注)	実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】「社会活動」は、非営利組織を中心とした研修先において、実際の現場での体験を得ることにより、将来のキャリアの形成に役立てることを狙いとしている。</p> <p>【概要】公共機関等が開催するイベントへのボランティア参加や外国の大学生との交流活動などを通じて、社会での実践力・企画力を養うとともに「社会を見る目」を養う。</p> <p>具体的な研修先、及び研修内容等は多様であり、毎年4月末から6月頃に掲示され、募集が行われる。</p> <p>【到達目標】自分の職業適性や将来計画を考える機会を持つことができる、研修先の現場体験で専門分野における高度な知識・技術にふれることができる、自立的に考え行動できるようになる、など。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 未定（事前指導のなかで指示する）</p> <p>(2) 未定（事前指導のなかで指示する）</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 事前指導：主に前期を中心に研修先の決定、各研修先での研修内容の確認および研修先での諸注意や保険の説明などを行う。研修：主に夏期休暇期間に、実際に研修先での研修を行う。事後指導：研修終了後は、研修日誌の作成・提出、研修レポートの作成、研修報告会の発表の準備などを行う。</p> <p>第 2回</p> <p>第 3回</p> <p>第 4回</p> <p>第 5回</p> <p>第 6回</p> <p>第 7回</p> <p>第 8回</p> <p>第 9回</p> <p>第10回</p> <p>第11回</p> <p>第12回</p> <p>第13回</p> <p>第14回</p> <p>第15回</p>				
授業外学習 (予習・復習)					
成績評価の方法	研修レポートおよび事前事後指導の出席状況・履修態度を中心に評価する。(101%)				
実務経験について					

授業科目	授業番号： 456			担当者	担当教員
	企業研修			授業外対応	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	通年	2単位	選択(注)	実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】この科目は、一般的には「インターンシップ」と呼ばれている。「企業研修」は、民間企業を中心に県庁、病院などの研修先において、現場で就業体験を行い、将来のキャリアの形成に役立てることを狙いとしている。</p> <p>【概要】県内外企業や県庁・市役所の現場で働く経験を通じて、社会人としての課題、企業運営、職務遂行に必要な知識・技術を理解し、働くことの自覚や自信を身につける。具体的な研修先、及び研修内容等は多様であり、毎年4月末から6月頃に掲示され、募集が行われる。</p> <p>【到達目標】自分の職業適性や将来計画を考える機会を持つことができる、研修先の現場体験で専門分野における高度な知識・技術にふれることができる、自立的に考え行動できるようになる、など。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 未定（事前指導のなかで指示する） (2)				
授業 スケジュール	<p>第 1回 事前指導：主に前期を中心にインターンシップの意義、研修先の決定、各研修先での研修内容の確認および研修先での諸注意や保険の説明などを行う。 研 修：主に夏期休暇期間に、実際に研修先での研修を行う。 事後指導：研修終了後は、研修日誌の作成・提出、研修レポートの作成、研修報告会の発表の準備などを行う。</p> <p>第 2回 第 3回 第 4回 第 5回 第 6回 第 7回 第 8回 第 9回 第 10回 第 11回 第 12回 第 13回 第 14回 第 15回</p>				
授業外学習 (予習・復習)					
成績評価の方法	研修レポートおよび事前事後指導の出席状況・履修態度を中心に評価する。(100%)				
実務経験について					

(注)県短独自分は3年生も履修可